

# 令和6年度事業報告書

## 社会福祉法人 八起会

- 法人本部  
(経営委員会)
- 石部ケアハウス
- 石部デイサービスセンター
- 八起会居宅介護支援相談所
- 介護老人保健施設 石部ケアセンター  
(デイケア併設)
- 八起会ホームヘルプステーション
- 介護老人福祉施設 もみじ
- もみじデイサービスセンター
- もみじケアプランセンター
- 特別養護老人ホーム あぼし
- デイサービスセンターにこにこ
- 特別養護老人ホーム みやのもり
- みやのもりデイサービスセンター
- 八起会みやのもりリハビリステーション
- デイサービスセンターこんぜの郷
- こんぜデイサービスセンター
- 八起会栗東居宅介護支援事業所
- グループホームみなくち
- デイサービスセンターあさひがおか

## 令和6年度事業報告書

社会福祉法人 八起会

### 法人本部

(令和6年度 総括)

令和6年度は介護報酬、障害福祉サービス等報酬の改定年度であり、経営対策委員会を中核に第六次中期経営計画(令和6～8年度)を第五次から引き継ぐ形で立案し、その実現に向けて着手した初年度であった。しかし、インフレ下による物価上昇が続く中、介護業界を取り巻く経営環境は極めて厳しい状況が継続している。引き続き感染対策に取り組みながら、集団感染(クラスター)が発生することなく、コロナ禍前に行っていた行事やボランティアの受け入れなどを徐々に再開できるようにしたものの、ここ数年のコロナ禍において、通所系サービスの利用控えも経営悪化に拍車を掛けている。一方、人材の面では、依然として人員確保が困難であり、運営効率向上のため、みやのもりデイサービスセンターの営業を休止し、利用者と職員を他の通所サービスに統合した。また、こんぜの事業所においては、利用者を確保できずに収益悪化の状態が半ば常態化しているため、認知症対応型デイサービスから地域密着型デイサービスへの転換を実施し、一般型デイサービスにリハビリ特化の機器を導入することで、集客を図ることとした。さらに石部デイケアでは、需要が少ない土曜日の営業を中止し、平日に集中して効率的に運営することとした。また、PCのモバイル化を機に八起会居宅介護支援相談所と八起会栗東居宅介護支援事業所の法人内の二つの事業所を八起会居宅介護支援相談所へ統合し、拠点を一ヶ所とすることにより不正リスク要因の低減、効率性・利便性の向上、経費削減を図ることとした。それに加え、業務の生産性と効率性の向上にむけて、県や国からの補助金を活用することで、効率化や職員負担軽減のためのICT導入を積極的に進めている。具体的な導入例として、「眠りスキャン」の導入とインカムを設置を行った。このように経営の安定化と黒字化に向けて、具体的な施策を実施し、社会福祉や地域福祉の発展という高い公益性、公共性が求められる社会福祉法人を維持するための経営改善につなげていきたい。

令和6年度の経営状況を見ると、事業収益面では、サービス活動収益が前年度比-2,363千円の1,796,134千円となった。しかし、令和6年度は前年度と比較して物価高騰に関する補助金の大幅な減少等があり、その他補助金を除いた本業としてのサービス活動収益は前年度比+1,500千円となった。内容としては、以前より減少傾向が続く石部ケアハウスや八起会ホームヘルプステーションの利用率の回復ができなかったこと、また、みやのもりデイサービスセンターの休止に伴い利用者を吸収したはずの石部デイサービスセンターが逆に前年度比で減収となったこと、同様に八起会栗東居宅介護支援事業所を吸収した石部居宅も収益は変わらずとなってしまったことなどがマイナス要因となった。しかしながら、石部ケアセンター、もみじ、あぼしといった入所系サービスや、デイサービスセンターにここの収益が増加したことにより全体的には本業としての増収につながった。事業支出面では、年間通じての延べ常勤職員数が減少したため、後述する期末賞与の支給があったものの人件費は大幅な減少となった。また、経費面では、水道光熱費において様々な

対策を講じて使用量の削減には成功したがエネルギー価格の高騰により費用は増加した。さらに物価高騰の影響により給食費、業務委託費、修繕費が増加したほか、EPA採用者の増加による研修・研究費、福利厚生費の増加もあり、全体として経費は増加となった。その結果、前年度と同程度の利益が見込めることとなったため、職員への慰労の意を込めて0.2ヶ月分の期末賞与を支給することとし、最終的に当期活動増減差額12,829千円となり引き続き黒字となった。

人事面においては、介護職の採用の難易度が上がる中、令和6年度スタート時に新卒者6名を新たに迎えることができた。しかし、令和7年卒の新卒採用は、これまでで最も苦戦を強いられた。介護業界の新卒採用が苦戦している背景には、いくつかの要因がある。例えば、労働環境の厳しさや給与水準の低さが学生にとって魅力的ではないと感じられることが挙げられる。また、介護業界への就職を希望する学生の母集団が少ないことも課題である。さらに、仕事内容がどの施設でも似通っているため、学生が特定の企業を選びにくいという側面もある。医療・福祉業界に就職する学生数は、平成2年以降5万人台で推移してきたが、令和3年、令和4年には急増し、6万人以上に上った。主な理由は、コロナ禍により観光や飲食、製造業など複数の業界が経済的に大きな打撃を受けた結果、常に安定した雇用が見込める福祉・介護業界への人気が高まったためと考えられる。過去を振り返っても、福祉・介護業界への就職は、不況になると一時的に増える傾向がある。令和5年卒、令和6年卒では減少し、元の水準に戻っていて、今後もコロナ禍前と同様に、介護職が採用しにくい状況は続くと予測できる。そのような中で、法人が採用力を高めていくためには、新卒採用を積極的に進めるための継続的な取り組みが今後ますます重要になる。法人にとっては、組織の活性化のためにも安定した運営のためにも、若手人材を採用していくことが欠かせない。まずは、情報収集と情報発信の機会を増やすことである。そのひとつが、学生の職業意識を知る機会でもあり、学生たちへ介護業界への理解を深めてもらう機会としてのインターンシップである。注目すべきは、近年急速に増加しているインターンシップ応募者数の動向である。インターンシップの応募者数増加の背景には、インターンシップを実施する法人が増えていることも関係している。だからこそ、インターンシップや説明会のクオリティを上げなければならない。令和7年卒の新卒採用で苦戦した要因の一つが学生との関係構築につながらない表面的なインターンシップにとどまってしまったことではないかと考えている。昨年後半からは、インターンシップ後の交流に力を注いだ。学童保育所などを巻き込んだイベント企画の実施や先輩との交流につなげる等、採用難だからこそ新しい工夫や施策をどんどん取り入れている。加えて、就職活動が業種にかかわらず早期化、長期化している。一つの法人から内々定を得ても就職活動を継続する学生が増えていて、最終的には複数の法人を比較検討して就職先を選ぶ動きが定着している。政府が要請している新卒採用の原則的なスケジュールに合わせては、広報活動の解禁日である3月1日の時点で、すでにインターンシップ等を通して見つけた学生に内々定を出している法人も少なくないので、就職活動の早期化に対応するため、可能な限り採用スケジュールを早めている。また、説明会を開催し、具体的な業務内容や施設の様子についても丁寧に伝える機会を増やすことも重要になる。まずは今後の採用のメインターゲットとなるZ世代の価値観や就活環境を理解することである。Z世代は、人手不足の売り手市場が続くなかで就活を迎えてきたため、ゆとり世代に比べれば就職への不安は少ない傾向がある。若手の介護人材を採用していくには、Z世代の価値観を知ったうえで、それ

に合わせた対応をしていかなければならない。約3年間のコロナ禍がZ世代の学生たちの生活に与えた影響や価値観の変化である。コロナ禍では、親の収入が減ったり、アルバイトが継続できなくなったりしたことで、経済的な不安を感じた学生も多かったといわれている。コロナ禍が学生たちに、安定した職に就くことの重要性をより強く実感させた面もあると考えられる。また、プライベートを重視する傾向が強まっているので、採用動向やZ世代の価値観を踏まえて、採用活動を見直していきたい。

外国人労働者の受け入れについては、令和6年12月にインドネシア人1名、フィリピン人9名のEPA(経済連携協定による介護福祉士候補者)を迎え入れることができた。それにより外国人比率が高まることが予想されたので、令和7年度のEPA採用については見送ることとした。令和6年度の退職者がEPA介護福祉士1名、介護福祉士候補者3名で、結婚や本人のメンタル不調で帰国した者、円安の影響で他国に移住した者、都会に憧れ東京の介護施設に転職した者、理由はさまざまである。現在、介護福祉士合格者4名と介護福祉士候補生が17名在籍している。しかし、EPA人気の高まりを受け、希望のマッチング数に達しないことがここ数年で増えているため、令和6年度から特定技能の受け入れも始め、令和6年5月と令和7年1月にインドネシア人がそれぞれ1名ずつ入職している。さらに滋賀県在住の定住権や永住権のあるブラジル人、ペルー人、中国人等の外国人のパート職員も12名在籍している。EPAにおいては、国家試験合格後は実質的な永住権を得るため、法人側が負担する多額の費用と時間、環境整備などのコストに対する費用対効果を考慮すると定着して欲しいのは当然の帰結であるが、不合格となり帰国せざるを得ない人、合格後に数年働いて帰国する人、別の施設に転職する人、こういったさまざまな事情があり、定着は半数以下になるだろうと予測している。定着率を上げるためにも仕事面・生活面を含めた手厚いサポートが大切になってくる。また、今後は副主任や管理職候補者として活躍してくれることを望むところである。このように、今後も日本人の採用状況を鑑みながら、EPAと特定技能を平行して受け入れていく方針である。

一方、中途採用についてもハローワークや転職情報サイトなどの求人媒体を使って募集をかけ、職員から知人や友人を紹介してもらったりファラル採用も行っているが、慢性的な人手不足状態が続いており、他業界と比較して有効求人倍率が高い傾向にあるため、採用競争が激化している。そのため、他業界と比較して未経験者を採用する割合が高く、人手不足故に採用合格ラインを下げることによって、採用した人材が早期退職するといった課題もある。採用難や賃金引上げの機運の高まりなどを背景に、給与額を見直す企業・施設も少なくない。働きやすい環境づくりに努めることも重要である。特に介護業界は女性の割合が高く、女性のライフイベントやライフワークを考慮した働きやすい環境に努めたい。

常勤職員の異動については、年度途中の退職者は21名(定年以降退職3名)、新卒採用者は6名、中途採用者は14名、非常勤から常勤への登用は2名、常勤から非常勤への変更は2名となり、年度当初の職員数207名に対し、年度末職員数は、206名となっている。年度末における非常勤職員を含めた総職員数は、338名と昨年度末比±0名となった。離職率については、厚生労働省の令和5年雇用動向調査結果(令和5年1月から12月)から法人全体で全産業および医療・福祉の平均値よりは低い結果となっているが、令和3年度が6.5%、令和4年度が9.4%、令

和5年度が10.3%、令和6年度が10.1%と残念ながら令和5年度から10.0%を超えている。特に新卒の早期退職が目立つ。令和4年から令和6年までに入職した新卒の40%が2年以内で退職している。法人への期待と現実のギャップ、労働条件の不満、給与への不満、職場の人間関係、責任の重さ等が考えられるが、コロナ禍で採用した年代であることも要因のひとつかもしれない。より一層定着促進のための対策を講じていきたい。

研修・教育プログラムの充実にも継続的に取り組み、研修委員会と連携し、知識・技術などの専門性の向上とマネジメント能力、コミュニケーション能力や豊かな感性を養う人間力の向上などを目的に外部講師を交えて年間研修計画を作成している。今年度の重点項目はマネジメント人材の育成である。これまで管理職として組織を牽引してきたシニア世代の人たちが定年を迎えることで、マネジメント経験者が徐々に法人外に流出している。一方、中堅クラスの人材に目を転じると、マネジメントの知識とスキルが不足しているため、管理職への登用が難しい状況に陥っている。こうした事情があいまって、組織と事業をマネジメントする管理職が足りないという課題が上がっているため重点的に取り組んだ。それに加えて、引き続き昨年同様の研修を行った。さらに令和7年度導入に向けて、効果的にスキルアップする介護に特化したオンライン動画研修の検討を始めた。

そして、これら研修を支援してもらえる人材開発支援助成金の活用を始めた。企業が従業員に専門的な知識や技能を習得させるための訓練を計画的に実施した場合、訓練経費や訓練期間中の賃金の一部が助成されるもので、申請の手間は掛かるが、費用負担の軽減が図れることになる。また、企業人権問題に対しての法人内研修については、近年、全国的に利用者への人権侵害が高齢者虐待につながるケースが多く報告されており、社会的にも大きな問題となっていることから、認知症高齢者における人権をテーマに当法人の介護老人福祉施設もみじが作成した研修動画をもとに実施した。高齢者虐待は、高齢者に関わるすべての人々にとって重要な課題であるため、例年通り、直接介護サービスを提供しない職員(施設長、事務職員等)や、介護職以外で直接高齢者と関わる他の職種も含め、全職員を対象として実施した。高齢者の人権を擁護する側にあることを改めて認識し、当法人において高齢者虐待等の事例を起こさないためにも、初心に返り、日々の介護を見直してもらう機会にするためのものである。さらに、法人の信頼回復や再発防止のために非常に重要なコンプライアンス研修については、コンプライアンス相談員が輪番制で研修内容の検討から実施、報告までを行うように改善した。輪番制で実施することには、いくつかの利点がある。相談員が研修を担当することで、実施者自身が内容をしっかり理解し、学ぶ必要が生じる。このプロセスを通じて、コンプライアンスに関する知識が深まり、意識も高まる。また、異なる相談員が順番に実施することで、内容の伝え方や例示されるケーススタディに多様性が生まれ、受講者が様々な視点からコンプライアンスを学ぶことができるのがメリットである。相談員に研修実施の役割を担わせることで、コンプライアンスの重要性に対する責任感が生まれ、自らが説明役となることで、所属組織全体のコンプライアンス文化への貢献意識も高まる。一方で、相談員にとっては準備や実施に一定の負担がかかるため、その負担に配慮したサポート体制の整備や適切な時間管理が重要になると考える。

また、法人ではワークライフバランスを推進するための取り組みを積極的に行っている。令和6年度の育児休業の取得率は男女とも100%、月平均所定外労働時間は4.3時間、平均年休取得率は

81.4%、厚生労働省の令和 5 年就労条件総合調査結果(令和 5 年・令和 4 年会計年度)での全産業および医療・福祉の平均値より高い結果である。

経営に関しては、第六次中期経営計画の「人材の確保・育成」、「安定経営に向けての事業展開」、「安定経営に向けての経営マネジメント」の課題と方向性に基づいて、主要施策の項目を掲げ、効率的、効果的に遂行できるよう、これまで同様、各所管の責任において実行していく項目と、委員会等にゆだねる項目、PT(プロジェクトチーム)方式で進める項目など、区分けして取り組んでいる。特に経営対策委員会を中心に具体的推進策(工程表)に基づき分析、検証を進め、令和 6 年度も継続して法人財務分析および他法人比較を行うなどに取り組んだ。また、各事業所の専門職の連携を強化し、組織力を一層高めるため、「専門職会議」を発足した。昨今の介護業界は急速な変化にさらされ、法改正や利用者ニーズの多様化が進んでいる。このような環境下で、法人が一丸となり、高品質なサービスを提供し続けるためには、専門職間の連携強化が不可欠である。組織力を高めることで、各職種の知識と技術を最大限に活かし、業務の効率化や業績向上を図ることを目指すためである。

事業継続のための大規模修繕については、令和 6 年度には特別養護老人ホームあぼしの防水・空調設備工事、特別養護老人ホームみやのもりの非常用発電設備の工事、介護老人福祉施設もみじの浴室温水器更新工事、こんぜデイサービスセンターの駐車場造成工事、BCP 対策による介護老人福祉施設もみじの発電機の回路追加工事に着手した。加えて、関西電力の高圧個別割引廃止に伴う節電対策としての LED 照明への交換を丸山の 3 施設、特別養護老人ホームみやのもり、グループホームみなくちで実施した。

また、次世代育成支援対策推進法と女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)に基づいて策定した「一般事業主行動計画」の計画期間満了に伴い、次期行動計画を策定し、労働局に届出を行った。①管理職に占める女性労働者の割合を 40%以上にする、②男性職員の育児休業取得日数を通算 1 ヶ月以上にする、③地域の子どもの施設見学及び幅広い年代と多様な人材のインターンシップの受け入れを行うことを目標に掲げた。

それから、令和 7 年度より業務効率化と利用者の利便性向上を目的に、サービス利用料を口座振替にすべく検討を行い、効率性と手数料等の経費を比較した結果、「りそな決済サービス」を導入することに決定した。

その他については、残念ながら令和 6 年度も例年開催している祭りは中止とした。自主防犯組織「八起会安心パトロール隊(青パト)」は継続しており、徘徊不明高齢者の早期発見保護活動に重きを置き、有効な活動を推進し、児童・生徒に対する痴漢予防の活動にも努めている。また、「介護職員処遇改善加算」、「介護職員等特定処遇改善加算」、「介護職員等ベースアップ等支援加算」、6 月からの「新・処遇改善加算」、すべて無事申請することができた。さらに、令和 7 年 1 月より介護福祉士・社会福祉士・ケアマネジャーの資格取得に関わる研修や受験の時間を勤務時間として扱うことで、業務と資格取得の両立を支援することとした。また、コスト削減、業務効率の向上、セキュリティの強化、利便性の向上、環境への配慮等の観点から令和 7 年 1 月より Web 給与明細を導入した。

障がい者雇用については、法人で雇用すべき人数 6 名に対して、令和 7 年 3 月末時点で 7.5

名となっており、法定雇用率(2.5%)を上回る雇用を維持することができている。人材が不足しがちな分野において、障がい者を雇用することは人材の確保にもつながる。適切なフォローや条件の合致を重視し、引き続き、個々の障がい者の能力を最大限に生かしたい。

それから、近年、労働災害が増加傾向にあったため、衛生委員会発信で「労働災害ゼロの達成」を目標に掲げ、「全国安全週間」に合わせて、令和 6 年度のスローガンである「危険に気付くあなたの目 そして摘み取る危険の芽 みんなで築く職場の安全」により危険箇所発見時のヒヤリハット報告の推進とポスター掲示での啓発を行った。それに加え、「全国労働衛生週間」に合わせて、法人内で多く発生している「腰痛」の予防に重点を置き、腰痛が発生しやすい作業時の原因や正しい姿勢についての資料を配布し、「腰痛予防これだけ体操」の実施を強化した。さらに労災件数が多い法人内 2 施設の所属長を労務管理講習会へ参加させることで、安全意識を高めてもらい、転倒災害防止ポスターなどで注意喚起を行うなど、これらの取り組みを通じて、労働災害の発生を防止し、安全な職場環境を実現することを目指した。それらの効果により、令和 6 年度労働災害ゼロを達成することができたと確信している。

厳しい経営環境が続く中ではあるが、今後も八起会の理念に基づいた事業展開を進め、介護人材の確保と質の高いサービスの提供、経営バランスの管理、生産性の向上、そして BCP リスクマネジメントの強化を図っていく所存である。

## 経営委員会 総括

引き続き、経営委員会において以下の取り組みを行った。

### ➤ 経営対策委員会

本年度は、第 6 次中期経営計画(令和 6 年度～令和 8 年度)を策定し、①人材の確保・育成、②安定経営に向けた事業展開、③経営マネジメントの強化の 3 つの柱を中心に取り組みを進めた。少子高齢化の進行と介護人材の確保がますます困難となる中で、業務の合理化と生産性向上が急務となっている。そのような情勢に対応するため、当委員会では、法人としての方向性を迅速に定めるため、必要な検討と対応を進めてきた。

#### ≪①人材の確保・育成について≫

法人で働く職員が意欲的に取り組めるよう、評価制度の見直しを進めている。本年度は各専門職に応じた評価軸の具体化を行い、次年度以降の本格運用に向けて調整を進めている。法人研修委員会と連携し、OJT 計画の内容についてもすり合わせを実施した。

#### ≪②安定経営に向けた事業展開について≫

##### ・職場環境整備

職員の職場環境改善を目的に、休憩室の整備について具体的な提案を行った。

##### ・石部ケアハウスの利用率向上策

稼働低迷への対応として、近隣施設の状況を調査し、「入居一時金の選択制」や「イベントの企画」等を提案。これらの施策は令和 7 年度上期より実施予定である。

##### ・LIFE システムの運用管理

科学的介護情報システム(LIFE)の新システムへの移行に際し、担当者の交代があった 2

事業所では個別に対応を行い、他事業所も含め、年明けまでに業務運営に支障がない体制を整備した。

・専門職会議の定例化

専門職ごとに委員を選任し、説明会を実施。専門職会議の目的と運営方針について、共通認識を持つことができ、現在も定期的に開催し、運営は軌道に乗っている。また、小委員会と連携し、評価基準の作成を令和7年度上期までに専門職会議にて進行中である。

・適正人員の配置と財務の改善に向けた取り組み

各事業所の業務実態と財務状況をもとに、適正な人員配置の試算を行った。特に、特別養護老人ホームあぼし・特別養護老人ホームみやのもり・介護老人福祉施設もみじの各事業所では、最低勤務人員の算出シートを作成し、人件費の観点から適正人員の目安を明確化。これらのデータを各事業所における令和7年度の予算編成に活用。今後も他の事業所や職種についても同様の分析を進め、持続可能な運営に資する基礎資料として整備していく。

・居宅介護支援事業所の統合

令和6年11月1日付で、八起会栗東居宅介護支援事業所を八起会居宅介護支援相談所へ統合し、業務の効率化を図った。

・石部デイケアの土曜営業廃止

利用率の低い土曜日営業を廃止し、利用者を他の曜日へ振り分けることで、人員配置の効率化を図った。

・業務効率化に向けた ICT 導入

補助金情報を集約し、特別養護老人ホームあぼし・特別養護老人ホームみやのもり・グループホームみなくちの3事業所において、見守り機器(眠りスキャン)および情報伝達機器(インカム)を導入した。

《③経営マネジメントの強化について》

・法人内セキュリティの強化

PCのモバイル化に対応し、「情報関連機器持ち出し規程」および「セキュリティルール」を策定・施行した。さらに、IOT機器の増加に伴い、石部丸山施設内のIPアドレス枯渇への対策として、セグメントを7分割し、管理機器・業務機器・介護機器をそれぞれ分けて管理することで対応を完了した。

・財務改善に向けた検討

特別養護老人ホームあぼし・特別養護老人ホームみやのもり・介護老人福祉施設もみじの3事業所において最低勤務人員の算出シートを作成し、人件費の観点から適正人員の目安を算出。適正人員加算小委員会と連携し、令和7年度予算の作成に反映した。

・法人ガバナンス体制の強化

コンプライアンスチェックリストを作成し、令和6年7月より順次事業所の巡回チェックを実施。結果を決裁書にて報告し、施設長会議で共有・フィードバックを行った。

➤ 業績向上委員会

今年度も法人内の各部署間の連携と情報共有に加え、地域とのつながりと法人PRの強化に取り組んだ。居宅部門と通所部門、入所部門に委員会のメンバーを分担し、それぞれの部門で相談員、ケアマネジャーを中心に定期的に会議を開催し、利用率向上に向け取り組みを行った。

《居宅部門》

・地域のサロンやイベント、会議等に参加し、地域の現状把握と課題等の情報を収集し、当法人の事業所へ情報提供を行うとともに法人のPRに努めた。

・地域住民に向けた介護保険の講習会と施設見学会を実施。

次年度についても、継続的に地域のサロン等に参加をしていく。また、施設見学会の定期開催をしていく予定。

《通所部門》

・情報の共有と業務改善を目的に通所間の合同会議を月1回開催し、居宅からの情報や意見を確認しながら日々の運営の中で対応できることを実施。

・地域に向けた広告を作成。

・昨年度から取り組んできた石部デイサービスの日曜日営業の調整を行った(9月から開始)。しかし、人員の関係等で積極的な営業活動には至っていない。また、石部デイサービスについては、インカムを導入し業務の効率化を図った。

次年度については、今年度同様に定期的に合同会議を開催し、情報の共有を行う。今年度作成した広告に通所の動画広告を添付していく。

《入所部門》

・待機者の整理と次期入所者の調整等を中心に連携・情報交換を行い、空床期間の削減に取り組んだ。また、入所者の選定については、各施設共に介護度や認知症度の兼ね合いがあることから、調整を図り加算維持に努めた。

・石部ケアハウスの入居者がスムーズに特養や老健のサービスを使用できるよう情報共有する書式の整備を進めている。

次年度も引き続き、各部門での連携を図りながら取り組みを進め、業績向上につなげていきたい。また、外部関係機関等への働きかけの幅を広げていき業績向上につなげていく。

➤ サービス向上委員会

前年度の取り組みの継続として、地域PR(交流)・職員のマナー(教育)について活動を実施した。

・地域PR(交流)

湖南省福祉協議会より講義の依頼を受け、10月2日(水)石部高校にて「介護の仕事の考え方や魅力」について語る事ができた。生徒に介護の仕事を知ってもらえる良い機会となり、併せて八起会をPRする場にもなった。さらに、石部中学校の生徒会と共に、丸山地域の清掃活動を2か月に1回で実施し、交流を深める事ができた。

・職員のマナー(教育)

家族、利用者向けのアンケートを事業所ごとに Google フォームを使って実施した。アンケートを電子化したことで、事業所によっては、紙媒体だった前年度に比べ、回答数が少なくなったところがあった。回答者側もインターネットにアクセスできる環境が必要であり、これが原因で回答率が低下した可能性もある。特に対象者が高齢者やインターネットに不慣れな層の場合、紙ベースのアンケートの方が適している場合もある。こういったデメリットもあるが、回答者側の世代によっては、スマートフォンからでも簡単に回答できるので便利であり、作成者側も無料で利用が可能、初心者でも簡単に短時間でフォームを作成でき、自動で集計・グラフ作成もできるなどメリットも多い。今後、基本的には電子化を進めていきたいが、検討課題とする。また、匿名での回答を可能にするなども検討したい。

➤ 研修委員会

前年度に引き続き、新入職員と中途職員を対象に介護技術の基礎研修を実施した。また、介護専門職として入職から5年目までのキャリアアップについて、新たな小委員会の立ち上げとオンデマンド研修の導入について検討した。

新たな小委員会では、介護基準に合わせた指導方法の統一化を図るため、委員がOJTについての外部研修を改めて受講し、法人内の指導マニュアルの作成を手掛けた。次年度については、マニュアル等を実際に現場へ波及できるよう、指導者の育成を含めて、法人全体での指導方法を統一できるように取り組んでいきたい。

また、オンデマンド研修の導入については、昨年度より課題に上がっている繁雑する研修のスリム化を検討し、学びの機会を確保しつつ、負担を減らせることを目的に法定研修のオンデマンド化を実施した。効果等の検証は、次年度への課題として残っているが、介護福祉士や介護支援専門員の資格に対する模擬試験や動画研修も含まれているので、資格取得の後押しとして期待している。

今年度の研修に対してのアンケート調査からも自分の成長に研修を受けたいとする職員もいることから、介護人材が不足する中での研修機会の確保と現場指導者の役割は重要であり、次年度の課題として取り組んでいきたい。

➤ 感染症対策委員会

法人の委員会として活動を開始して2年目となる今年度は、「新型コロナウイルス感染症」が5類に指定され、行政による様々な要請・関与が個人の選択を尊重する自主的な対応に移行する中、「高齢者介護」という業態から一般の開放ムードとは温度差があるため、どの程度の感染対策を続けるべきか、委員会で慎重に検討を重ね、家族との面会などのQOLの向上を図りつつ、高齢者の感染リスクを最小限に抑え、安全な環境を提供することを目指した。

また、BCP(事業継続計画)の策定が義務化された初年度であり、自然災害編を担当する経営対策委員会のメンバーと連携を図りながら、1回目の研修は合同で実施、2回目の研修とシミュレーションにより全職員へ周知したほか、BCP計画(感染症編)の検証および見直しを行っ

た。

(発熱時の休業対応と書面の統一)

・職員の発熱時の対応について、改めて確認し法人内で認識の統一を図った。

(感染予防着の使用指針の明確化)

・感染予防着を法人内で統一した(キャップ、シューズカバーの廃止)

(面会制限の緩和と感染対策)

・周囲の感染拡大状況を把握し、適宜面会制限をおこなった

・令和7年3月以降は、各施設が周囲の感染状況に基づいて、面会の可否、あるいは、面会方法を判断する体制とした。

(BCP(事業継続計画)感染症編の作成と更新)

・BCP研修2回、シミュレーション1回の実施を通して、策定した計画の検証および見直しを行い、将来的な感染症にも対応可能な内容への変更を加えた。

#### 理事会開催状況

令和 6年 5月 22日(水)

1. 令和5年度事業報告及び決算報告(案)について
2. 評議員会の開催について
3. もみじ浴室温水器更新工事の入札結果について

令和 6年 8月 26日(月)

1. 会計報告について
2. 第六次中期経営計画(案)について
3. 金融機関取引について

令和 6年 9月 20日(金)

1. 八起会栗東居宅介護支援事業所の廃止について
2. 地域密着型特別養護老人ホームみやのもり非常用発電機導入工事の入札業者の選定について

令和 6年 12月 24日(火)

1. 会計等報告について
2. 地域密着型特別養護老人ホームみやのもり非常用発電機導入工事の入札結果について
3. 金融機関取引について

令和 7年 1月 20日(金)

1. 地域密着型特別養護老人ホームみやのもり業務用給湯器更新工事の入札業者の選定について

令和 7年 3月 21日(金)

1. 会計等報告について
2. 金融機関取引について
3. 令和6年度補正予算(案)について
4. 令和7年度事業計画及び予算(案)について
5. 令和6年度指導監査結果等の結果報告について
6. 就業規則の変更について
7. 経理規程の変更について
8. 役員等賠償責任保険の契約について
9. 地域密着型特別養護老人ホームみやのもり業務用給湯器更新工事の入札結果について

10.介護老人福祉施設もみじボイラー更新工事の入札業者の選定について

#### 評議員会開催状況

令和 6年 6月 15日(土)

1. 令和5年度事業報告及び決算報告(案)について

#### 監事監査の実施状況

令和 6年 5月 22日(水)

山元監事・仁科監事により実施

石部ケアハウス  
石部デイサービスセンター  
八起会居宅介護支援相談所  
(令和 6 年度 総 括)

- ・要介護 1 …15 名
- ・要介護 2 … 8 名
- ・要介護 3 … 1 名
- ・要介護 4 … 1 名
- ・要介護 5 … 0 名

1. 総括

(1) 石部ケアハウス

- ・令和 6 年度は、年間退居者 8 名に対し新規入居者 7 名の獲得にとどまり、入居延べ人数は満床 18,250 名(定員 50 名×365 日)に対し 15,035 名(令和 5 年度 16,218 名)となり、年間利用率 82.38%と前年度対比 6.03%の減少となった。
- ・退居先の内訳は、老健 3 名・特養 2 名、他施設入居 1 名、入院および死亡が計 2 名であり、老健や特養への入所が半数以上を占めた。
- ・入所段階での高齢化が進み、身体的に自立が困難な入居者が増加している。同時に、入所期間の短期化もみられ、退居者が想定以上に発生している。また、入居申込や施設見学はあるものの、自立度の低さや身元引受人・代理人の選定の困難さなどから、入居に至らないケースが増加している。
- ・前年度に引き続き、入居者の会である「ふるさと会」を基盤として、入居者の自己選択・自己決定を尊重したサポートを行うことができた。具体的には、「食べる楽しみ」として入居者自身がメニューを選べるセレクト食を毎月のイベントとして定着させた。
- ・新型コロナウイルス感染症の 5 類への移行に伴い、カラオケ・いきいき体操・喫茶・ボランティア等を復活させることができた。
- ・新たな取り組みとして、地域資源を活用した洋服や生花の移動販売も行った。
- ・交流事業では、三雲養護学校石部高校分校の生徒が作ったパンの販売を実施することができた。また、多機能型就労支援 A 型・B 型事業所 NPO 法人「エルディ」による手作りクッキーの販売についても定期的に実施できた。
- ・入居者によるボランティア活動として、石部デイサービスセンター利用者の見守りサポート、特養あぼしや石部ケアセンターのトイレで使用する感染防止用新聞紙のセット作業を行った。
- ・設備面では、廊下等の共用部分の照明の LED 化を行った。
- ・利用率の低迷に伴いサービス活動収益は前年度対比 6,908 千円減となった。それによりサービス活動増減差額も 7,183 千円の赤字となった。
- ・令和 6 年度末現在

入居者内訳 男性 11 名、女性 30 名、計 41 名  
 平均年齢 男性 84.3 歳、女性 86.7 歳、全体 86.1 歳  
 男性(最年少 73 歳、最年長 99 歳) 女性(最年少 71 歳、最年長 97 歳)  
 要介護・要支援状態区分該当者 29 名 (前年度該当者 29 名)  
 ・要支援 1・2 …4 名

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6 年度	74,305	29,459	33,447	18,582	▲7,183
5 年度	81,213	29,186	36,846	18,352	▲3,171
4 年度	86,900	26,301	37,588	16,981	6,030

(2) 石部デイサービスセンター

- ・令和 6 年度の利用率については、前年度を上回ったものの、目標利用率(71.4%)には至らず、55.89%(令和 5 年度 65.2%)となった。
- ・新規利用者については、当人居宅介護支援事業所からの紹介が 14 名、外部居宅介護支援事業所からの紹介は 11 名であった。
- ・利用登録者の増加を図るため、要支援認定の利用者についても積極的に受入れを実施し、継続して取り組んでいる。なお、令和 6 年度に区分変更により要介護と判定された利用者はいなかった。
- ・サービス活動収益は、令和 6 年度は入院や登録抹消となった方の増加により利用率が減少し、前年度対比で 4,248 千円のマイナスとなった。業務効率化、経費削減意識は継続して実施したが、人件費・物件費ともに増加し、結果、サービス活動増減差額は前年度対比 9,239 千円のマイナスとなった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6 年度	61,776	82,566	14,718	5,122	▲40,630
5 年度	66,024	78,320	14,255	4,841	▲31,391
4 年度	57,234	79,748	14,902	4,867	▲42,343

(3) 八起会居宅介護支援相談所

- ・令和 6 年度は 11 月 1 日に八起会栗東居宅介護支援事業所との統合を実施し、居宅介護支援事業所の拠点を一ヶ所に集約した。これにより業務の効率化と利用者の利便性向上を図り、より一層満足いただけるサービス提供に努めた。
- ・令和 6 年度は、新規利用者の受け入れが 41 名(令和 5 年度 59 名)、八起会栗東居宅介護支援事業所統合に伴う利用者移行受入れ 71 名(CM4 名分)、死亡・入所等による契約終了者が

64名(死亡・入所等の令和5年度87名)であった。

・年間延べ利用者数は2,670名で、令和5年度に比べ19名減。その内訳は、要介護延べ人数が2,107名(令和5年度2,106名)、要支援は563名(令和5年度583名)と前年度対比で要介護者1名増、要支援者は20名減となり、比率は、要介護者78.9%(令和5年度78.3%)、要支援者21.0%(同21.7%)で要介護者の割合が増加している。また月平均では、要介護者175.5名(令和5年度175.5名)、要支援者46.9名(令和5年度48.5名)となった。

・介護支援専門員の一人当たりの月間利用者件数は36.79名(令和5年度37.8名)であった。

・昨年度作成したBCP(事業継続計画)マニュアルに基づき、研修および訓練を行った。

・地域貢献活動として生活支援コーディネーターや民生委員、市議会議員の方などとの意見交換の機会を設け、地域の社会資源の現状を把握、課題を分析しながら、今後、地域に必要な社会資源の提案や、地域の高齢者が住み慣れたまちで生活し続けられる仕組みづくりに携わった。

・地域の行事(愛宕まつり、ロビーサロン等)への参加、地域の子供たちから高齢者までが交流できる居場所づくりのイベントを開催した。

・八起会の施設説明会にて介護保険についての説明を行い、法人の知名度向上に努め、地域住民に高齢者福祉の制度について啓発活動を行った。

・湖南市コア会議に担当ケースを提出し、各関係機関の担当者と話し合うことで、利用者の権利擁護を図るとともに、地域で安心して生活ができるように連携を行った。

・職員の資質向上では、他法人の事業所と合同事例検討会を実施した。また、地域包括支援センターが実施する事例検討会にも積極的に事例を提出した。さらに甲賀・湖南ケアマネ協議会等の研修会への参加や、介護支援専門員としてのスキルアップを目的とした勉強会を週1回開催し、利用者に関する情報共有も行った。

・24時間連絡体制により、独居世帯、高齢者世帯や介護力が不十分な世帯、また虐待、経済的困窮世帯などの困難な介護ケースも受け入れ、各関係機関との連携を密にして、地域の方々や行政に信頼される事業所としての役割を果たした。

・働き方改革として、7日間の連続休暇(年次有給休暇5日間+公休2日間)を職員全員取得するとともに、年間の有給休暇取得率、事業所全体で65.8%(年間付与日対比)の実績を果たした。また、業務効率化を進め、職員一人当たりの月平均時間外勤務を6.51時間とした。

・サービス活動収益は、年間延べ利用者数19名減から前年度対比344千円減の37,347千円となった。居宅統合による職員増員、及び異動や退職に伴う人事異動により人件費が前年度対比3,145千円増、及び居宅統合に伴う物品購入等により物件費が前年度対比862千円増となり、サービス活動増減差額は前年度対比4,366千円減となった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	37,347	29,202	3,220	637	4,288
5年度	37,691	26,057	2,358	622	8,654
4年度	37,013	22,229	2,073	838	11,901

2. 年間延べ利用者数(デイサービス・居宅介護支援 上段:介護 下段:予防)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ケアハウス	1,258	1,182	1,140	1,244	1,333	1,290	1,319	1,230	1,286	1,302	1,176	1,284	15,035
デイサービス	521 19	552 23	549 18	579 6	567 6	526 7	577 8	529 24	541 17	505 18	456 20	527 22	6,429 188
居宅介護支援	158 39	154 37	152 37	151 39	152 41	145 34	143 36	219 63	214 61	207 60	206 57	206 59	2,107 563

3. 職種別職員数(令和7年3月31日現在)

形態	職種	施設長	事務長	相談員	栄養士	介護職員		看護師		介護支援専門員		その他
						常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
石部ケアハウス		1 (1)	1	1	1	2 (1)	1					
石部デイサービス		1 (1)		3 (2)		3	6 (1)	1				6
居宅介護支援										7	1	
計		2 (2)	1	4 (2)		5 (3)	7 (1)	1		7	1	6

( ):うち兼務

4. デイサービス登録者数（令和7年3月31日現在）

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
0	3	19	26	12	8	4	73 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">                     男性 23                      女性 50                 </div>

5. 年間行事等実施内容

別紙のとおり

令和6年度 行事等実施報告書(ケアハウス)

項目	行事				その他		
	日	内容	日	内容	日	内容	
4月	2	お花見弁当 カラオケを楽しむ会	12	お誕生日会	17	喫茶	
	23						
5月	10	お誕生日会	12	母の日 編み物教室	14	カラオケを楽しむ会	
	19	五月人形片付け	20	編み物教室	22	さつま芋の苗植え	
6月	3	クッキー販売	11	カラオケを楽しむ会	12	喫茶	
	16	父の日	20	手作りパン販売	23	七夕飾り作成	
7月	1	クッキー販売	7	七夕	9	手作りパン販売	
	16	カラオケを楽しむ会	17	喫茶			
8月	13	カラオケを楽しむ会	16	お誕生日会	21	喫茶	
9月	2	クッキー販売	11	喫茶	13	お誕生日会	
	17	カラオケを楽しむ会	19	手作りパン販売	23	編み物教室	
10月	7	クッキー販売	9	喫茶	11	お誕生日会	
	21	編み物教室	23	カラオケを楽しむ会	28	さつま芋掘り	
11月	4	焼いも	8	お誕生日会	10	害虫駆除	
	13	喫茶	19	カラオケを楽しむ会	20	洋服の販売	
12月	11	喫茶	12	手作りパン販売	16	編み物教室	
	20	お誕生日会	21	ゆず風呂	23	ボランティア	
1月	1	年賀祝賀会	1	記念撮影	2	書初め	
	15	小正月(甘酒とぜんざい)	17	お誕生日会	21	カラオケを楽しむ会	
2月	26	お花の販売	27	編み物教室			
	2	雛人形の飾りつけ	6	手作りパン販売	11	編み物教室	
3月	2	桃の節句茶話会	5	ボランティア お誕生日会	10	クッキー販売	
	11	編み物教室	14		18	カラオケを楽しむ会	

- ・映画鑑賞会 (第1、第3日曜日 13:00～)
- ・生き生き体操 (祭日除く毎週月曜日 13:30～14:00)
- ・お針の会 (第4日曜日 10:30～)
- ・書に親しむ会 (第2日曜日 10:30～)

※2月後半は感染症拡大防止の為、行事は中止としました。

- ・書に親しむ会(第1、第3 日曜日10:30～)

令和6年度 行事等実施報告書(石部ダイサービスセンター)

項目	行事				その他		
	日	内容	日	内容	日	内容	
4月	2	ティーパーティー	12	ティーパーティー	18	手作りおやつ	
5月	1	ティーパーティー	9	手作りおやつ	14	ティーパーティー	
6月	3	手作りおやつ	4	ティーパーティー	14	ティーパーティー	
7月	4	手作りおやつ	8	ティーパーティー	17	手作りおやつ	
8月	5	手作りおやつ	6	ティーパーティー	16	ティーパーティー	
9月	12	手作りおやつ	13	ティーパーティー	23	手作りおやつ	
10月	3	手作りおやつ	16	ティーパーティー	25	手作りおやつ	
11月	9	ティーパーティー	12	手作りおやつ	18	手作りおやつ	
12月	6	ティーパーティー	10	手作りおやつ	19	手作りおやつ	
	25	クリスマス会					
1月	4	新年会 手作りおやつ	8	ティーパーティー	17	手作りおやつ	
	27						
2月	3	ティーパーティー	11	ティーパーティー	19	手作りおやつ	
3月	6	手作りおやつ	10	ティーパーティー	21	手作りおやつ	

## 介護老人保健施設 石部ケアセンター

### (入所・ショートステイ・デイケア)

(令和 6 年度 総括)

#### 1. 総括

##### (1) 石部ケアセンター

令和 6 年度は、運営の安定化を図るために、前年度より継続していた報酬区分「超強化型」を継続する事を目標とし運営を開始した。新規利用者の受入れ、在宅復帰支援の増加に力を注ぎ、その結果、「超強化型」を年間通じて維持することができた。

一方で介護職や看護師の退職後における人員確保ができず、利用率が減少する要因となった月もあったが、業務の効率化や職員間の連携により業務を遂行することができた。また、地域への貢献事業においては、外部機関やボランティアからの依頼を受け、可能な範囲で講師派遣を行った。

業務面では、退所者(在宅復帰含む)は 137 名(令和 5 年度 144 名)、入所者は 143 名(令和 5 年度 132 名)を受け入れた。これにより入所者数は増加したが、最終的な年間利用率は 85.91 % (令和 5 年度 86.54%)と前年度対比 0.63%減少した。

利用率は当初の目標には達しなかったが、居宅介護支援事業所への営業の効果もあり、短期療養介護利用者の新規獲得に成果がみられ、来期に希望が持てる実績となった。

介護に関する事故等については、年間 203 件(令和 5 年 198 件)で前年度より 5 件増加した。事故の原因には様々な要素が絡んでいるが、介護事故を防ぐためには、職員の介護技術の向上や事故に対する予見能力の強化が必要であり、今後も研修・啓発、指導を継続していきたい。また、苦情の申し出件数は年間を通して 0 件であった。

##### <時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6 年度	372,754	247,155	86,723	29,548	9,328
5 年度	349,392	247,885	81,389	27,412	▲7,294
4 年度	331,528	268,820	91,499	25,678	▲54,469

##### (2) 石部デイケア

令和 6 年度は、前年度に引き続き、自己都合等の休みによる利用率低下防止の取り組みとして、琵琶湖一周スタンプラリー(1 周 50 スタンプ)を実施した。継続した取り組みであったこともあり、利用者の半数以上がゴールに到達し、休まず通所することへの意識付けができたことで、自己都合等による休みが減少した。その結果、前期・後期を通じて前年度を上回る利用率となった。また、水曜日の登録者数・利用率が他の曜日に比べて低かったため、登録者数・利用率向上の対策として、水曜日にボランティアを積極的に受け入れ、他の曜日との差別化を図った。その結果、他の曜日

からの利用日変更などを含め、水曜日の登録者数は 7 名増加した。

延べ利用者数は、上期 3,535 名、うち予防 796 名(令和 5 年度 3,194 名、うち予防 672 名)、下期 3,489 名、うち予防 819 名(令和 5 年度 3,239 名、うち予防 633 名)となり、年間では 7,024 名、うち予防 1,615 名(令和 5 年度 6,433 名、うち予防 1,305 名)で、前年度より 591 名の増加となった。

令和 7 年 1 月より土曜日の営業を中止したが、振替利用などにより、延べ利用者数や利用率を下げることなく移行することができた。

居宅介護支援事業所との連携強化や新規紹介の営業については、リハビリだけではなくデイケアをアピールするため、毎月のレクリエーション等の写真を載せたチラシを、実績報告時に配布した。これにより、居宅介護支援事業所からの新規紹介件数は、令和 6 年度は 40 件(令和 5 年度は 31 件)あり、前年度より 9 件増加した。

令和 7 年 3 月 31 日時点の登録利用者数は、要支援 26 名(令和 5 年度 23 名)、要介護 82 名(令和 5 年度 83 名)、合計 108 名で、前年度より 2 名増加した。

感染対策については、引き続き、パーティションの設置、マスクの着用と手指消毒の徹底、乗車前・到着後の体温確認、リハビリ機器の消毒、定期的な換気、利用者同士の間隔を広くとるなどの感染対策を行い、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の集団感染は発生しなかった。

リハビリテーションに関しては、前年度に引き続き ADL(日常生活動作)や QOL(生活の質)の向上を目的に、日常生活動作に関連した体操や DVD 等の映像や音楽に合わせた体操などを実施した。また、利用者の自主性を高めるため、脳トレなどのプリントや手指のリハビリ器具、足につける重りなどを取りやすい場所に配置した。利用者が自らプリントやリハビリ機器を取りに行き、他の利用者の分も取ってあげるなど、「自主的に動くリハビリ」が定着してきた。

レクリエーション・地域交流では、毎週水曜日を中心にボランティアを受け入れ、利用者地域の方々との交流を図ることができた。

職員のスキル向上については、レクリエーションの企画決裁書を毎月 1 つ作成・提出してもらい、会議で発表するようにした。これにより、レクリエーションの意義の理解が深まり、協力し合える職員の育成につながり、徐々にスタッフ間の連携や声掛けにも良い変化が見られるようになってきた。

ヒヤリハット事例は 0 件(令和 5 年度 0 件)、事故件数は 1 件(令和 5 年度 10 件)、苦情の申出は 0 件(令和 5 年度 0 件)であった。

##### <時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動 収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動 増減差額
6 年度	65,426	27,632	10,511	3,110	24,173
5 年度	57,843	26,873	9,251	3,178	18,541
4 年度	58,199	27,741	10,239	3,140	17,079

2. 利用者数(延べ人数)

石部ケアセンター

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期	
入所延べ数	1,560	1,766	1,701	1,867	1,789	1,875	10,558	
入所者数	9	15	12	13	14	14	77	
退所者数	14	9	13	11	12	12	71	
ショート	184	172	209	186	281	148	1,180	
デイケア	596	634	558	615	568	564	3,535	
(うち介護予防)	135	150	134	151	113	113	796	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期	合計
入所延べ数	1,921	1,764	1,773	1,864	1,711	1,920	10,953	21,511
入所者数	10	9	15	12	13	7	66	143
退所者数	9	15	14	9	9	10	66	137
ショート	139	246	206	174	201	184	1,150	2,330
デイケア	664	609	574	557	498	587	3,489	7,024
(うち介護予防)	154	146	131	128	123	139	821	1,617

3. 石部ケアセンター職種別職員数(令和7年3月31日現在)

職種	(医師) 施設長	事務長	副施設長	薬剤師	管理栄養士	PT OT	支援相談員	(含DC) 看護職員	(含DC) 介護職員	介護支援 専門員	事務員	その他
常勤職員	1 (1)	0	1 (1)	0	1	6	3 (1)	5	30	1	2	0
非常勤職員	0	0	0	0	0	0	0	3	10	0	0	8
委託	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1 (1)	0	1 (1)	1	1	6	3 (1)	8	40	1	2	8

( ) : うち兼務職員数

\* 総人数 70名

4. 年間行事等実施内容

別紙のとおり

## 令和6年度 行事等実施報告書(石部ケアセンター)

項目 月	行事			日	日	日	日	日	日	その他
	2階	3階	行事							
4月	19	手作りおやつ「たこ焼き」		3	4	5	8	8	電気設備点検 エレベーター点検	
				4	5	8	18	18	移動散髪	
5月	23	手作りおやつ「ちまき形クレープ」		2	4	7	8	8	電気設備点検	
				4	7	17	8	8	水質検査 移動散髪	
6月	20	手作りおやつ「たこ焼き」	18	1	3	7	7	7	電気設備点検	
			25	3	4	17	17	17	エレベーター点検	
7月	20	アイスクリーム屋さん ぎよぎの皮ピザ		1	8	5	5	5	電気設備点検	
	16			8	9	19	19	19	移動散髪	
8月			2	1	2	6	6	6	電気設備点検	
				2	5	15	15	15	エレベーター点検	
9月	24	スマートフォン作り	19	10	14	6	6	6	電気設備点検	
			26	14	17	20	20	20	移動散髪	
10月	18	かぼちやモンブラン作り	24	3	5	8	8	8	電気設備点検	
				5	11	16	16	16	エレベーター点検	
11月	15	手作りおやつ「りんごのコンポート」	21	6	7	15	15	15	電気設備点検	
				7	15	7	7	7	移動散髪	
12月	5	手作りおやつ「たこ焼き」	13	5	7	12	12	12	電気設備点検	
	16	クリスマスカフェ		7	9	16	16	16	エレベーター点検	
				9	10	20	20	20	移動散髪	

項目	行事				その他			
	2階	3階	日	日	日	共通		
1月	1	松花堂弁当 鏡開き「せんざい」	1	松花堂弁当 鏡開き「せんざい」	6	新年会「松花堂弁当」	16	電気設備点検
	14	鏡開き「せんざい」	14	鏡開き「せんざい」 新年のお茶会	9	リンク拾い	17	移動散髪
2月					10	鏡開きせんざい		
					16	オセロ&カードゲーム		
					17	行事食塩ちやんこ鍋		
					23	納汁		
			20	手作りおやつ「チョコレートパン」	5・12・19・26	ホラソングライブ訪問	5	電気設備点検
					6	味噌作り	20	エレベーター点検
					10	和太鼓のストラップ	21	移動散髪
					11	行事食「あんかけうどん」		
					14	おやつ作り「ラカニ」		
					17	出前ランチ「魚駒」		
3月					20	五平餅を作ろう		
					25	お手玉		
					27	数字取りバトル		
					28	お天気カーリング		
					4	おやつ作り「ひな三色蒸しパン」	7	電気設備点検
			13	手作りおやつ「ミニどら焼き」	5・12・19・26	ホラソングライブ訪問	21	移動散髪
					7	宝探し		
					10	サイコロ数字ゲーム		
					13	行事食「春ちらし」		
					14	数字合わせゲーム		
				19	出前ランチ「ママsキッチン」			
				20	ジェスチャーゲーム			
				24	桜餅			
				27	のびのびセットライブゲーム			

第3金曜日  
毎月

移動散髪  
電気設備点検

## 八起会ホームヘルプステーション (令和 6 年度 総括)

### 1. 総括

令和 6 年度も在宅サービスを支える使命感を持ち、基本サービスに加え、感染対策を一層強化した体制で業務に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の分類変更後も、感染者が完全にいなくなったわけではなく、感染症と診断され、サービス利用が中止となる利用者が見られた。また、職員が感染し、派遣に制限が生じたケースもあった。その結果、当初の計画していたサービス提供人数やサービス回数には達することができなかった。さらに、今年度は介護報酬の改定があり、基本のサービス単価の引き下げもあり、収益が減少した。

一方で、他サービス事業所や居宅介護支援事業所との連携を密にし、利用者の要望に応えることで満足度の向上を図るという方針を事業所全体で共有し事業推進に努めた。さらに、サービスの質の向上を図るため、職員を研修に参加させるなどして基盤づくりを行った。

昨年同様、障害者総合支援法に基づくサービスについては、地域会議が新型コロナウイルス感染症の影響で中止されたことから、地域のニーズや障がい者サービスの動向調査は継続できなかった。その結果、同行援護・居宅介護・重度訪問介護サービスの新規利用者はゼロとなった。

#### □ 業務面より

令和 6 年度は、前年度以上に居宅介護支援事業所と密に連携を図るなどの対策を講じたが、事業所登録利用者数は 43 名と前年度より 2 名減少となった。

障害者総合支援法に基づくサービスにおける利用者数は 5 名(令和 5 年度 5 名)となった。ヒヤリハット事例は 3 件(令和 5 年度 3 件)、事故件数は 2 件(令和 5 年度 1 件)、苦情件数は 2 件(令和 5 年度 1 件)であった。

#### □ 経営面より

介護保険利用者の延べ人数は、477 名(令和 5 年度 561 名)で 84 名の減少、派遣回数は 4,209 回(令和 5 年度 4,847 回)と 638 回の減少、サービス提供時間は 3,007 時間(令和 5 年度 3,442 時間)と 435 時間の減少であった。

障害者総合支援法に基づくサービスにおいては、対象者が介護保険サービスと総合支援法サービスを複合利用していたため、派遣回数は 293 回(令和 5 年度 317 回)と 24 回の減少であった。

サービス活動収益は、18,040 千円であり、訪問回数の減少により前年度対比 996 千円の減少となった。人件費は前年度対比 318 千円増、物件費等は前年度比 219 千円減、減価償却費は前年度対比 293 千円減となり、その結果、サービス活動増減差額は前年度対比 801 千円の減少であった。

### <時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6 年度	15,748	14,870	1,385	179	▲962
5 年度	18,040	14,870	1,141	330	1,699
4 年度	19,036	14,552	1,360	623	2,500

### 2. 利用者数(派遣利用者数)

#### ホームヘルプステーション

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
介護保険 (人数)	40	40	39	37	39	38	233
派遣回数	374	377	351	359	352	318	2,131
サービス 提供時間	267	264	245	253	244	219	1,492
障害者 総合支援 (人数)	4	4	4	5	4	4	25
派遣回数	27	28	25	29	26	25	160
サービス 提供時間	27	27	24	30	24	25	157

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	小計	合計
介護保険 (人数)	40	39	40	41	41	43	244	477
派遣回数	381	354	338	333	322	350	2,078	4,209
サービス 提供時間	264	250	246	247	239	269	1,515	3,007
障害者 総合支援 (人数)	4	5	4	4	4	5	26	51
派遣回数	25	21	23	18	19	23	129	289
サービス 提供時間	25	21	24	19	19	23	131	288

3. ホームヘルプステーション職種別職員数（令和7年3月31日現在）

	所長	サービス提供 責任者	ヘルパー職員
常勤職員	1(1)	2(2)	3(2・サ責含む)
パート等非常勤職員			3
合計	1(1)	2(2)	6(2)

( ) : うち兼務

## 介護老人福祉施設もみじ(入所・短期入所)

### もみじデイサービスセンター

### もみじケアプランセンター

(令和 6 年度 総 括)

#### 1. 総括

令和 6 年度のもみじでは、新型コロナウイルス感染症の影響により制限をかけていた外部との関わりを、ある程度緩和し、ボランティアや実習生の受け入れ等を積極的に行った。これまで培ってきた関係性がそのまま薄れていくことは、施設にとって利用率や職員採用などに不利益をもたらすため、地域とのつながりを少しずつでも回復させていきたい。また、新型コロナウイルス感染症に関わる利用の影響は少なくなり、例えばショートステイの利用者に体調不良がみられたため早急に対応したところ、クラスターとなり得るところを防ぐことができた。これは以前の経験と感染拡大防止研修を実施したことが大きかったと考える。緩和すべき点と感染拡大防止策の両面を踏まえた対応が必要である。感染の BCP 対策も回数を重ねることにより、さらに強固なものにしていきたい。

職場環境としては、開設以来使用してきたナースコール本体を入れ替え、音のみの対応だけでなくスマートフォンによる画面での確認を行えるように導入した。ナースコールの音がフロアに響くことが少なくなり、職員の精神的負担の軽減や利用者の生活環境の改善につながった。また、浴槽ボイラーを更新し、湯温が安定するようにはなったが、シャワー温度は不安定であるため、令和 7 年度の環境整備事業として実施を予定している。

職員については、新卒職員、中途職員の早期退職が当年度には複数みられたことは反省点であり、採用時の状況確認と初期の OJT の内容についての精査を行っていく必要がある。介護職員の不足の中で、より安定した勤務ができるようにこれからも働きかけを行っていく。

#### <時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6 年度	369,428	223,161	98,378	31,906	15,983
5 年度	365,267	234,133	88,374	27,810	14,951
4 年度	359,612	224,913	95,153	29,613	9,933

#### (1) 施設入所事業

入所事業について、令和 6 年度の退所は例年よりも多く 17 名の退所者があり、待機上位者への事前聞き取りを行って空床期間をより少なくするように心がけていたが、退所ペースが思うよりも早くなったため、平均 17.9 日の空床期間を要した。前年度の 21.1 日よりは短期間での入所とできたが、利用率を考えると 10 日以内での入所を目指していきたい。また、早めに入所申し込み上位者に連絡しても、老健への入所であったり、在宅で落ち着いていたりするため保留されるケースも少なからずあり、さらに独居の方を対象にすると、家族が遠方に在住のため契約に日数を要してし

まうこともみられた。異例であったが、入所決定後に体調を崩し、退院ができないまま 2 週間以上も入所ができない状態の方も複数名おられた。その見極めは非常に困難ではあるが、今後は待機者の状況や情報を当人家族だけでなくできる限り、担当ケアマネジャーや病院などからも積極的に収集することが求められる。

年間利用率は 97.09% (令和 5 年度 96.86%) であり、目標の 98% には届かなかった。

#### <時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6 年度	226,365	137,722	54,312	21,223	13,108
5 年度	219,682	137,425	55,064	18,251	8,942
4 年度	218,237	131,095	59,654	20,047	7,441

#### (2) 短期入所事業

短期入所事業については、安心して在宅生活を継続できるように心がけ、利用者家族が希望される日程で利用していただけるよう、最大限調整を行った。キャンセル発生時には、即時にキャンセル待ちからの利用調整を行うとともに、各居宅介護支援事業所に向けて発信し利用率の向上に努めた。

ケアマネジャーとの連携では、新規利用者の初回利用の様子を伝えることでリピート率を高め、利用者家族にも送迎時に様子を伝えるなど、安心して利用できるように取り組みを行った。お互いに相談できる関係性を継続して実施できていることは、利用率の高さに表れている。送迎確認の電話連絡でも、利用者家族との情報共有を綿密にし、信頼関係の構築に重きをおいた。反対に利用者家族から受けた要望等については、多職種で共有・連携を図り、速やかに改善できるようにすることで、より良いサービス提供を行えたと考える。「また利用したい」と思っていたことが高い利用率になることを念頭に、利用者も利用者家族も楽しめるショートステイを実行できた。

感染拡大について当事業所が施設内で一番リスクの高さがあるが、体調不良時の対応を厳格に行い、早期に受診を勧め自宅療養の相談交渉を行った。その結果、体調不良のまま施設内で過ごす時間を極力少なくすることで感染拡大防止につながったといえる。しかし、利用したいという利用者家族の思いを最大限くみ取っているとはいえ、今後は両立が課題となる。

年間利用率は 84.15% (令和 5 年度 81.60%) であり、目標の 82% を達成した。

#### <時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6 年度	72,530	52,613	19,878	5,944	▲5,905
5 年度	70,556	52,572	19,583	4,959	▲6,559
4 年度	66,587	51,789	20,818	4,932	▲10,952

(3) もみじデイサービスセンター

当事業所では新型コロナウイルスの影響により外出行事を自粛していたが、令和6年度よりイチゴ狩りやもみじ狩りなど季節に合わせた外出を再開させた。利用者や利用者家族からは好評を得られ、継続した利用または回数の増加につながった面もある。こうした取り組みは、事業所の広報誌に掲載し、法人外の居宅介護支援事業所にアピールするとともに、電話や対面による営業も実施しており、今後も継続していきたい。

利用者の内訳としては、要支援の方が全体の約20%とかなりの数を占めており、前からの流れではあるが要介護への移行を狙ってはいるものの、利用率だけでなく収入の落ち込みも目立った。今後も要支援であっても受け入れが必要不可欠ではあるが、収入面にも目を向けて取り組んでいく。また、感染が拡大すると運営・経営の両面に大きな影響が生じてしまうため、感染症拡大防止対策により体調不良者には事前に連絡し、体調確認を行うなどした結果、今年度は感染拡大がなく安定した運営を行えた。ただし、感染拡大防止ばかりを考えると利用制限につながるため、利用しづらい事業所とならないよう配慮が必要である。

年間利用率は59.37%(令和5年度62.92%)であり、目標の75%に対し大幅に未達となった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	53,354	27,438	13,099	4,368	8,449
5年度	57,483	29,605	13,002	4,401	10,476
4年度	56,603	27,573	13,917	4,411	10,702

(4) もみじケアプランセンター

今年度は、特に地域の関係機関との交流や連携を深める活動を積極的に行った。新型コロナウイルス感染症の蔓延以降、地域の活動は縮小されていたが、ようやくある程度の活性化が見られるようになったため、当事業所としてもこれを機会に関係性の強化や地域活動への自主的な参加を行った。地域住民から「介護の困りごとがあれば、もみじケアプランセンターへ」と言ってくれ、ことも多く聞かれるようになり、こうした活動の成果が少しずつ現れてきているものと考えられる。行政等の各種関係機関との連携はもちろん、地域住民との対話の場も多く設け、地域性を活かした事業展開を進めていきたい。

また、介護支援専門員の実習生を受け入れ、実習が有意義な時間となるよう配慮した。介護支援専門員の有資格者に当事業所の存在や価値を知ってもらうことを目的としており、今後も機会があれば継続していきたい。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	17,179	15,387	1,089	371	332
5年度	17,546	14,531	725	198	2,091
4年度	18,185	14,456	765	223	2,741

2. 年間延べ利用者数(もみじ入所・短期入所・もみじデイサービスセンター・もみじケアプランセンター)

(1) もみじ入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者 延べ人数	1,442	1,529	1,478	1,534	1,529	1,456	1,529	1,490	1,542	1,539	1,372	1,546	17,986
(うち)入 院・外泊 数	7	34	70	64	12	6	45	38	12	4	28	1	321

(2) もみじ短期入所生活介護(予防含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者 延べ人数	493	511	510	462	539	555	472	523	538	542	461	523	6,129

(3) もみじデイサービスセンター

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	要支援	20	20	20	19	20	19	20	21	22	22	22	23	248
	要介護	59	57	54	54	54	50	48	48	47	49	50	52	622
延べ 利用 日数	要支援	105	117	94	98	110	111	135	116	114	118	109	127	1,354
	要介護	495	492	434	456	443	413	435	401	410	346	351	435	5,111

(4) もみじケアプランセンター

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計画 作成 数	予 防	48	44	44	46	46	48	45	50	52	53	55	55	586
	介 護	77	75	71	71	69	66	69	72	70	69	67	69	845
合 計		125	119	115	117	115	114	114	122	122	122	122	124	1431

3. 職種別職員数(令和7年3月31日現在)

事業	職種	施設長・管理者	事務長	事務員	介護支援専門員	生活相談員	管理栄養士	看護職員		介護職員		嘱託医	指導員 機能訓練		その他	合計
								常勤	非常勤	常勤	非常勤		常勤	非常勤		
入所		1	0	2	1	3	1	5	0	21	4	1	1	0	16	56
短期入所		(1)			(1)	(1)	(1)	(2)					(1)			(7)
デイサービス		1	0	0	0	2	1	1	2	2	6	0	1	2	4	21
ケアプランセンター		(1)			3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
合計		3	0	2	4	5	2	6	2	23	10	1	2	2	20	81
		(3)			(1)	(3)	(2)	(3)	(2)	(2)			(2)	(2)		(20)

( ) : うち兼務

4. 年間行事等実施内容

別紙のとおり





## 特別養護老人ホーム あぼし(入所・短期入所)

(令和6年度 総括)

### 1. 総括

令和6年度も事業計画に基づき「利用者本位のユニットケア」に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の影響により、ここ数年は利用者家族や関係機関とのつながりが希薄になり、利用者の生活にも多くの制限が生じていたが、今年度は面会の緩和やボランティアの受け入れ、季節行事の実施が可能となった。これにより、施設全体に活気が戻ってきた。

サービス提供においては、今年度もケアの質の向上を目指し、職員一人ひとりが、利用者の人権・尊厳を意識したケアの実施に取り組んだ。また、今年度は防災・災害対策を強化すべく研修や訓練等を通して職員の意識を高めることができた。次年度以降も実用性のあるマニュアル作成を継続し、各職員へ周知していく。

育児休業者や傷病者、退職者から職員不足の状況が続いており、職員の負担が増加している中、業務改善を進めつつ、年度末には複数の介護ロボットや ICT 機器を導入した。次年度以降、導入した介護機器の運用を適切に行い、職員の負担軽減に努め、働きがいがあり働きやすい職場環境の整備を進めていく。また、職員の教育にも注力し、施設全体のレベルアップを目指す。

令和7年度も職員が一丸となり、利用者の人権・尊厳を大切にケアを実施していく。

<時系列推移表 施設全体>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	368,419	212,077	94,703	23,287	38,353
5年度	358,953	199,926	84,351	21,955	52,720
4年度	352,581	207,357	84,121	22,548	36,122

#### (1) 施設入所事業

利用率 95.68%と目標達成には至らなかった。要因としては、長期入院者が多数発生したことや、新規入所者の選定に苦慮したことが挙げられる。また、看護職員の退職により加算を取り下げたことや EPA 職員 5 名の受け入れ、修繕費等の経費が大幅に増えたことが減収の要因となっている。目標は未達となったが、新たな加算を取得することができ、人件費については、全国平均よりも低い水準で運営することができた。

次年度においては、これまで同様に次期入所者の選定を迅速に行い、空床期間の短縮に努めていく。また、入院者を最小限に抑えられるよう、介護力を向上させ、利用者の健康管理に努めていく。入院者が出た際には、医療機関との連携を密に行い、一日でも早く退院調整が行えるように努めていく。加えて、外国人職員等の指導に注力し、適正な人員配置での運営に努めていく。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	321,395	179,108	81,794	17,646	42,846
5年度	315,699	168,798	72,956	16,569	57,376
4年度	317,552	175,113	73,142	17,064	50,069

#### (2) 短期入所事業

本年度も、在宅で生活されている要支援・要介護高齢者の自立(自律)に向けたサービスの提供、また、利用者本人のみならず、その家族の支援も踏まえたサービスの提供および「施設と在宅の一元化」を目指したサービスの提供に努めた。

利用率は 82.33%と目標を達成することができた。これまで実績のなかった居宅介護支援事業所とのつながりができたことや、昨年度から注力している利用者家族や居宅介護支援事業所からの依頼に対し迅速に対応してきたことが利用率達成の要因と考えられる。

次年度においても新規利用者の獲得に向け、積極的な受け入れ態勢と柔軟なサービス対応に努め、居宅介護支援事業所との連携の強化とサービスの質を向上させることでリピート利用につなげていく。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	47,024	32,969	12,909	5,640	▲4,494
5年度	43,253	31,128	11,394	5,386	▲4,655
4年度	35,028	32,244	10,978	5,485	▲13,947

#### 2. 年間延べ入所・利用者数 (上段:あぼし施設入所・下段:短期入所)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設入所者	1,770 (36)	1,825 (39)	1,770 (2)	1,822 (28)	1,793 (90)	1,741 (59)	1,765 (11)	1,708 (41)	1,786 (34)	1,738 (0)	1,556 (13)	1,731 (57)	21,005 (410)
短期入所利用者	255	255	309	305	260	301	297	257	255	246	266	299	3,305
合計	2,025	2,080	2,079	2,127	2,053	2,042	2,062	1,965	2,041	1,984	1,822	2,030	24,310

\*施設入所者欄 ( )は入院による空床日数(うち数)

3. 職種別職員数(令和7年3月31日現在)

	施設長	事務員	生活相談員	介護支援専門員	管理栄養士	介護職員		看護職員		機能訓練指導員	調理員	医師		その他	合計
						常勤	非常勤	常勤	非常勤			非常勤	常勤		
施設入所事業 短期入所事業	1	1	2	1 (1)	1	29	11	3	1 (1)	1 (1)	委託	/	1	15	67 (3)

\*介護支援専門員はみやのもりと兼務

( ) : うち兼務

4. 年間行事等実施内容

別紙のとおり

令和6年度 行事等実施報告書(あぼし)

項目	行事			職員研修・職員会議等			災害訓練			健康管理・衛生管理		
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容		
4月	毎月	お誕生日会	毎月	プロック会議	17	医療的ケア委員会			3	ボイラー点検		
			2	役職者会議	23	リスクマネジメント委員会			8	厨房害虫駆除		
5月				給食会議					15	フイール(移動散髪)		
	毎月	お誕生日会	毎月	入所検討会議					18	エレベーター点検		
6月				プロック会議	17	身体拘束廃止虐待防止検討委員会			1	床ワックス清掃		
	毎月	お誕生日会	毎月	役職者会議	27	あぼし感染対策委員会			15	フイール(移動散髪)		
7月				給食会議					28	排水管洗浄		
	毎月	お誕生日会	毎月	入所検討会議								
8月				プロック会議								
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議	23	褥瘡・排泄委員会			10	厨房スチコン点検		
9月				給食会議		生産性向上委員会			11	フイール(移動散髪)		
	毎月	お誕生日会	毎月	入所検討会議	26	感染対策委員会			15	エレベーター点検		
10月				給食会議	28	事務担当者会議			19	フイール(移動散髪)		
	毎月	お誕生日会	毎月	入所検討会議					25	電気設備工事		
11月				生産性向上委員会					27	厨房機器修理		
	毎月	お誕生日会	毎月	プロック会議					20	フイール(移動散髪)		
12月				給食会議					23・24	窓ガラス清掃		
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議					23	電解水装置修理		
1月				入所検討会議					25	空調フイールター清掃		
	毎月	お誕生日会	毎月	プロック会議					27	受水槽清掃		
2月				給食会議					15	厨房害虫駆除		
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議	18	医療的ケア委員会			16	エレベーター点検		
3月				入所検討会議	19	口腔ケア研修(外部)			17	利用者インフルエンザ予防接種		
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議	25	感染対策委員会			28	フイール(移動散髪)		
4月				プロック会議					3	ekワゴン車修理		
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議					12	フイール(移動散髪)		
5月				入所検討会議					15	利用者コロナワクチン接種		
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議					16	エレベーター点検		
6月				給食会議					7	空調設備点検		
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議					9	エアコン点検		
7月				給食会議					14	フイール(移動散髪)		
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議					16	厨房害虫駆除		
8月				給食会議					22・27	夜勤従事者健康診断		
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議					24	消火栓入れ換え		
9月				給食会議					13	フイール(移動散髪)		
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議					16・17	ネットワーク強化工事		
10月				給食会議					20	エレベーター点検		
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議					26	浴室カビ取り		
11月				給食会議								
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議								
12月				給食会議								
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議								
1月				給食会議								
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議								
2月				給食会議								
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議								
3月				給食会議								
	毎月	お誕生日会	毎月	給食会議								

## デイサービスセンター にこにこ

(令和6年度 総括)

### 1. 総括

- ・利用者が住み慣れた地域で顔馴染みの人と一緒に安心した生活が少しでも長く続けられるように、認知症の進行予防に重点を置き、利用者それぞれの状態に合わせた対応を心がけ、一人ひとりが個性を發揮して、やりがいを持ち、いきいきと楽しく過ごしていただけるような雰囲気作りとケアの提供に努めた。
- ・利用者の認知症の進行予防につながる活動として、その方の能力や個性に応じて活動メニューを決め、洗濯物たたみ、ビニール袋たたみ、シール貼りなどの日常生活の中の作業を利用者にも手伝っていただき、活躍できる場面を意図的に設けた。利用者からも「何か手伝おうか」などの声が聞かれ、自分の好きなこと、自信を持ってできることなのでいきいきとした表情で取り組まれているため、このまま継続していきたい。何もしたくないという方には、無理に苦手なことをさせず、会話を楽しんでいただくなど、ゆっくり過ごせる環境を整えている。畑で野菜を育て、花壇には花を植え、四季折々の体験をして、懐かしい話で回想し、いろんな会話を花を咲かせ、その時が笑顔になれる取り組みを心掛けた。また、時には折り紙・編み物・歌・よし笛のボランティアを迎え楽しいひと時を過ごしていただいた。編み物は、好きな方が多く、意欲的に取り組まれていた。帰る前には、皆さんで懐かしい歌を唄い、楽しい気分帰宅していただいている。
- ・毎日、「百歳体操」(午後13:30分、DVDを視聴しながら取り組む)を今年度も継続して行い、身体機能の維持、低下予防に努めた。利用者の中で習慣となった方もあり、意欲的に取り組まれている。ルームサイクルを使用し、昼食後の5分から15分の運動を取り入れ下肢筋力の維持に努めている。午前・午後の集団体操では、全身を使い固くなった筋肉を少しほぐしている。
- ・利用者一人ひとりの認知症の症状に着目して観察を行い、ミーティングで情報共有し、ケアの改善を図り、利用者・利用者家族、ケアマネジャーとの連携にも努めた。認知症の症状が日々変化していく方々を職員の思い込みにならないように話し合いと情報共有を行っている。
- ・毎月、居宅のケアマネジャーに渡すモニタリングの用紙にその月の行事や日々の様子を写真にして載せ、利用者家族には手紙にしている(28年度から継続)。また、当法人のブログを見ていただけるように案内している。
- ・運営推進会議は、年に2回実施。(7月・2月)地域の方々にはにこにこを知っていただき、地域との連携を重要視して、何か一緒にできる事はないか話し合う機会ができた。
- ・「にこにこカフェ・介護なんでも相談所」(湖南市認知症地域支援推進事業)を毎月第2・4土曜日に開催している。地域の中でにこにこの存在を広める活動として、愛宕祭りに参加。いろいろな方々との交流も深まった。湖南市まちおこし協力隊(地域支え合い部会)の協力もありカフェの参加者は年間約90人余りの方の来所があった。広報活動としては、市役所、図書館、老人福祉センターに案内文を置き、回覧板で地域へ発信しており、広告をみたという電話での相談もあった。来所される方は近所の方で、相談内容としては、「介護認定を受けてケアマネをどこに頼んだらいい

いのか、誰がいいのか」といったもので、前年度よりも相談所としての役割が定着しつつあると感じている。

- ・「男性介護者の集い」(ケアメン集まれ)を地域の施設を借り開催することができた。地域包括支援センターの協力を得て、6月と12月の計2回実施。参加者は、合計8名自宅で介護されている方が日々の思いを話せる場を設けることができた。いろいろな方との交流で地域の支援を活用していただける場を提供できたと考える。
- ・「にこにこの集い」を6月と2月に開催。6月は3名の方が参加。お互いの介護経験を話されて、「他の実体験を聞いて良かった。」「無理せずいろんなサービスを使って自分の時間を作っています。」等の話がでた。2月は5名の参加予定であったが、悪天候で中止となった。
- ・地域密着型の事業所として、次年度も引き続き、避難訓練や認知症をテーマにした学習会の開催等、地域の方との関わりの場を積極的に設けていきたい。

〈時系列推移表〉

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	26,728	12,497	4,419	2,922	6,890
5年度	20,247	13,748	3,293	3,085	121
4年度	23,203	12,516	3,483	2,856	4,348

### 2. 年間延べ利用者数

令和6年度末現在の登録利用者数は19名。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用者数	176	198	184	219	214	206	193	178	171	171	147	174	2,231
1日当たり	8.0	8.61	9.25	9.48	9.73	9.81	8.65	8.48	7.77	8.14	7.35	8.29	7.92
利用率(%)	66.67	71.74	76.67	79.35	81.06	81.75	71.74	70.63	61.96	67.86	61.67	69.05	71.68

※. 令和6年度の1日平均利用者数は7.9名、利用率71.68%(令和5年度の1日平均利用者数は6.5名 利用率53.9%)であり、1日あたりの利用者数は1.4名増加、利用率は、約17.78%上昇した。年間の延べ利用者数は2,231名(介護給付のみ、介護予防は0名)で、前年度の1,672名と比較して559名の増加となった。平均要介護度は1.4(令和5年度は1.6)であった。

※. 年間の延べ利用者数、1日平均利用者数、利用率ともに、前年度と比較し増加している。令和7年度の目標は、利用率70%(1日平均8.5名)設定し、達成に向けて職員一丸となり、日々のケアの質の向上を図るとともに、新規利用者の獲得および現在の利用者の満足度向上に努めていきたい。

利用率の推移を見ると、みやのもりデイサービスセンター休止に伴う利用者の受け入れに加え、他事業所や地域包括支援センターからの紹介もあり、入院やショートステイ利用などの変動がありながらも安定した利用率を維持できた。今後も、現在の職員体制のもとでケアの質を維持しながら、利用者の皆様が楽しく過ごせる場の提供を継続していきたい。

2. 職種別職員人数(令和7年3月31日現在)

	管理者	生活相談員	ケアワーカー	機能訓練指導員
常勤職員	1(1)	2(2)	4(2)	1(1)
非常勤職員	0	0	3	0

( ):うち兼務

## 令和6年度 行事等実施報告書(にこにこ)

項目 月	行事		職員研修・職員会議等		災害訓練		健康管理・衛生管理			
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容		
4月	8～10	壁紙制作	11	誕生日会	4	集団指導		8	有川製菓	
	17	ちらし寿司	24	誕生日会	16	あんしん相談員会議				
	29・30	カレンダー制作	30	誕生日会	26	施設長会議				
5月	6～10	壁紙制作	9	誕生日会(手作りおやつ)	3	にこにこ会議	16	消防・避難訓練	17	人権研修(外部)
	15	歌のボランテニア	21	行事食(カレー)	17	身体拘束・虐待会議		20	ワックス	
	23・24	たこ焼き	29	誕生日会(手作りおやつ)	27	施設長会議				
6月	30・31	カレンダー制作								
	13	ちらし寿司	17	フレンチトースト	4	あんしん相談員会議		7	感染研修・実技	
	27・28	カレンダー制作			15	介護者の集い	13	消火点検	12 24	(身体拘束) 健康診断
7月					29	運営推進会議				
	4	フレンチトースト	10	歌のボランテニア	26	施設長会議				
	8～12	壁紙制作	12	そうめん	29	施設長会議		3	健康診断	
8月	23	愛宕祭り	30・31	カレンダー制作				9	健康診断	
					21	通所会議				
	1	おやき	5～7	壁紙制作	6	あんしん相談員会議	23	消防署立ち入り検査		
9月	9	おやき	19	誕生日会	19	サービス向上委員会会議				
	26	夏野菜カレー	28	歌のボランテニア	20	にこにこ会議				
	29・30	カレンダー制作			21	通所会議				
10月	2	折り紙	5	誕生日会	18	通所会議				
	9～13	壁紙制作	10	誕生日会	24	施設長会議				
	17	行事食(炊き込みご飯)	27・30	カレンダー制作						
11月										
	7	誕生日会	7～11	壁紙制作	8	あんしん相談員会議			21	インフルエンザ予防接種
	11	誕生日会	18	誕生日会	10	入浴研修			29	インフルエンザ予防接種
12月	25	上し笛(ボランテニア)	25	行事食	16	通所会議				
	30・31	カレンダー制作			22	施設長会議				
	4～8	壁紙制作	13	上し笛	1	若年性認知症勉強会	11	BCP訓練(感染症)	8	インフルエンザ予防接種
1月	21	行事食(鍋)	26・27	手作りおやつ(さつまいも巾着)	14	クア会議	18	消防・避難訓練	11	コンブライアンス研修
	28・29	カレンダー制作			18	サービス向上委員会会議	19	防犯訓練	19	ワックス
					25	施設長会議	21	土砂災害訓練		
2月										
	9～13	壁紙制作	12	誕生日会(手作りおやつ)	3	あんしん相談員会議	5	西村電機		
	16	はじめの一歩	18	誕生日会		にこにこ会議				
3月	19	手作りおやつ(さつまいもパイ)	30	行事食(鍋)	16	通所会議				
	30・31	カレンダー制作			24	施設長会議				
	6	折り紙(ボランテニア)	7～13	壁紙制作	21	施設長会議	14	災害対策委員会		
4月	8	誕生日会(手作りおやつ)	16	スマイル(ボランテニア)	25	運営推進会議				
	20	誕生日会(手作りおやつ)	24	手作りおやつ(おしるこ)						
	28	行事食(おでん)	30・31	カレンダー制作						
5月	3	折り紙(ボランテニア)	3	行事食(ちらし寿司)	4	あんしん相談員会議	21	集団指導		
	5～10	壁紙制作	7	誕生日会(手作りおやつ)	21	通所会議				
	12	歌(ボランテニア)	20	手作りおやつ(タコ焼き)	20	施設長会議				
6月	20	オカリナ(ボランテニア)	27・28	カレンダー制作						
	3	誕生日会(手作りおやつ)	3～7	壁紙制作	24	施設長会議	6	防災訓練		
7月	6	行事食(シチュー)	7	行事食(カレー)	28	にこにこ会議				
	10	歌のボランテニア	26	誕生日会(手作りおやつ)						
	27	誕生日会(手作りおやつ)	28・31	カレンダー制作						

地域密着型特別養護老人ホームみやのもり(入所・短期入所)

みやのもりデイサービスセンター  
八起会みやのもりリハビリステーション  
(令和 6 年度 総 括)

1. 総括

「個別の尊重・利用者の安心と満足できるサービス提供が行えるよう、職員一人ひとりが学びを深め、互いに成長できるように行動する。」ことを施設目標としている。

本年度は、外部研修を積極的に取り入れ、他施設との交流機会を持ち、自施設の課題解決につながるよう、中堅職員を中心に人材育成に取り組んだ。また、ICT 機器や介護ロボットの導入により、介護職員の精神的・肉体的負担の軽減を図り、働く環境の改善に取り組んだ。

しかしながら、様々な理由で退職者が増加したが、介護業界全体の人材不足の影響もあり、新たな人材確保には至らず、年度末には稼働を制限しながらサービスの維持に努める状況となった。

<時系列推移表:施設全体>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	224,811	142,205	57,874	21,972	2,760
5年度	256,961	166,767	61,215	21,977	7,002
4年度	252,852	163,605	61,628	22,000	5,617

(1) 施設入所事業

平均要介護度は 4.3 となっており、身体介助や認知症への対応、医療面なども含めて、介助量が慢性的に高い状況が続いている。今年度は、長期の医療的入院者が多かったことが利用率低下の大きな要因となった。

看取り期は一時帰郷にも継続して取り組み、入所者・入所者家族にとって思い出作りができるように支援し、安心して最期を迎えられるよう努めた。また、今年度は隣接する HOPPA 石部との交流の機会を持ち、地域とのつながりを意識した活動も再開できた。次年度も引き続き園児との交流を継続し、利用者の活力につながるよう支援していきたい。

業績面では、今年度の退所者は 12 名(令和 5 年度 8 名)、利用率は 94.57%(令和 5 年度 98.20%)であった。近年の懸案事項である入所申込数は、44 名(令和 5 年度 52 名)と減少傾向にあり、入所者の選定に時間を要する状況となっている。今後は、新規利用者の受け入れをスムーズに行えるよう、入所前の事前面接を随時実施し、空床期間の短縮に努めていく。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	168,818	88,882	38,880	15,906	25,150
5年度	170,476	91,818	36,670	15,865	26,124
4年度	166,993	88,616	36,270	15,968	26,137

(2) 短期入所生活介護事業

在宅で生活されている要支援・要介護高齢者の自立(自律)を目的とし、「施設と在宅の一元化」を目指したサービスの提供並びに利用者家族の介護負担の軽減(レスパイトケア)につながるサービスの提供に努めた。

今年度の利用率は 70.7%と年間目標(75%)を下回る結果となった。前年度と比較して長期ショートステイの利用が減少したことや、人員不足の影響で稼働制限を行ったことが要因である。介護業界全体の課題である人員確保に向けて、今後は新たな外国人職員の受け入れ等を進め、稼働制限の解消に努めていく。また、サービスの質の向上に取り組み、利用者および利用者家族の満足度を高め、リピーターの増加を目指していく。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	49,918	42,222	15,481	3,855	▲11,640
5年度	54,821	43,590	14,417	3,760	▲6,945
4年度	43,205	38,667	13,687	3,852	▲13,001

(3) みやのもりデイサービス事業

令和 6 年 6 月末で事業を休止した。これに伴い、利用者の在宅生活に支障が生じないように、各事業所と連携を図りながら、新たなサービスへの円滑な移行を行った。利用者からは事業の休止に対して、これまでのサービスを惜しむ声も寄せられた。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	2,855	4,184	2,866	1,707	▲8635
5年度	28,232	27,492	9,142	1,730	▲10,131
4年度	35,061	29,147	9,879	1,745	▲5,710

(4) みやのもりリハビリステーション事業

利用者が自立(自律)した日常生活を営むことができるよう、通所型サービスの中でも緩和した基準による総合事業として、サービスの運営を行った。

事業の特色であるリハビリ機器を十分に活用したリハビリメニューを実施し、また、専門職によるリ

ハビリ指導やアドバイスを通じて、総合事業の役割を果たすよう努めた。

平均登録者数は16.4名、利用率は46.15%(令和5年度47.87%)であった。今後は、地域包括支援センターとの連携をさらに強化し、利用対象者の情報収集を密に行い、継続的な利用につなげていきたい。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	3,219	4,184	647	504	▲2,115
5年度	3,431	3,867	986	622	▲2,045
4年度	4,507	3,806	1,357	527	▲1,183

2. 年間延べ利用者数

(1) みやのもり施設入所事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	29	29	28	29	28	29	29	29	29	28	30	28	345
入院外泊数	12	50	54	36	0	19	28	2	15	64	43	54	377
合計	41	79	82	65	28	48	57	31	44	92	73	82	722

(2) みやのもり短期入所生活介護事業(ショートステイ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	67	60	71	71	81	64	74	70	64	60	55	62	799

(3) みやのもりデイサービス事業

(介護のみ 予防なし)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
デイサービス	191	78	17	休止	—————→								286

(4) みやのもりリハビリステーション事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録者	18	16	16	16	15	17	18	17	19	15	15	15	197
延べ利用者数	64	56	56	61	47	58	74	64	56	54	40	57	687

3. 職種別職員数(令和7年3月31日現在)

	施設長・所長	事務員	生活相談員		介護支援専門員	管理栄養士	栄養士	介護職員		看護職員		機能訓練指導員	調理員	医師		その他		合計
			常勤	非常勤				常勤	非常勤	常勤	非常勤			常勤	非常勤	常勤	非常勤	
施設入所事業	1	1	1	1	1	1		19	6	2	1	1			1		4	40
短期入所生活介護	{1}				{1}	{1}						(1)						{3}
リハビリステーション	1											1						{2}
合計	2	1	1	1	1	1		19	6	2	1	2			1		4	42

( ) うち施設事業所内兼務 ・ { } うち本体施設兼務

4. 年間行事等実施内容

別紙のとおり

## 令和6年度 行事等実施報告書（みやのもり）

月	行事		日	内容	職員研修・職員会議等		災害訓練		健康管理 衛生管理		
	日	内容			日	内容	日	内容	日	内容	
4月	毎月	お誕生日会	8・17	手作りおやつ	毎月	24	リーダーワークショップ EPAリーダー研修		前日より 感染症予防対策 (面会制限実施)		
					毎月	30			2・3 床ワックス清掃 エレベーター点検		
5月	毎月	お誕生日会			毎月	14	リーダーワークショップ キャリア&ライティング研修		8 LED電球交換		
					毎月	16	フレックスマンリーダー研修		15・16・22 湖南市SW来所		
6月					毎月	22	運営推進会議 外国人リーダー研修		22 配管清掃		
	毎月	お誕生日会	6・7	手作りおやつ	毎月	30			29		
7月					毎月	10	リーダーワークショップ 管理職研修 中堅職員研修		1 面会回数制限緩和 エレベーター点検		
	毎月	お誕生日会	10・22	手作りおやつ	毎月	26	リーダー研修 EPAリーダー研修		17 入所者健康診断 20 入所者健康診断 (血液検査・胸部X線撮影)		
8月					毎月	27			24 職員健康診断		
	毎月	お誕生日会	23・28	手作りおやつ	毎月	7	リーダーワークショップ 管理職研修 中堅職員研修 キャリア&ライティング研修 身体拘束・虐待研修 リーダー研修 リスクマネジメント研修 外国人リーダー研修 BCP研修	7 消防・避難訓練	3・9 職員健康診断 10 湖南市SW来所 15 エレベーター点検	8 産業医施設巡回 15 エレベーター点検 31 消防設備点検	
9月	毎月	お誕生日会 敬老会	11・27	手作りおやつ	毎月	31	BCP研修		3・4 床清掃		
					毎月	10	リーダーワークショップ 管理職研修 中堅職員研修 口腔ケア研修 キャリア&ライティング研修 リーダー研修		12 ガラス清掃		
10月					毎月	12・25			13 湖南市SW来所		
	毎月	お誕生日会	8・21	手作りおやつ	毎月	13	キャリア&ライティング研修		19 エレベーター点検		
11月					毎月	28	リーダー研修				
	毎月	お誕生日会	13・22	手作りおやつ	毎月	27	リーダーワークショップ 管理職研修 運営推進会議 中途採用者リーダー研修 排泄研修 新任役席者研修 リーダー研修 外国人向けリーダー研修	27 災害訓練 BCP訓練	3 貯水槽点検 16 エレベーター点検	職員インフルエンザ予防接種②③ 入所者コロナワクチン接種⑧ エレベーター点検 15 空調フィルター清掃 15 空調フィルター点検 26 特定建築物調査 28 福祉避難所意見交換会	
12月	毎月	お誕生日会 手作りおやつ	16	手作りランチ	毎月	5	管理職研修 身体拘束・虐待研修 チームリーダー研修 キャリア&ライティング研修 AED研修		14 入所者インフルエンザ予防接種 16 エレベーター点検 26 EPA監査		
					毎月	16	リーダーワークショップ 管理職研修 運営推進会議 リーダー研修 BCP研修		14 入所者インフルエンザ予防接種 16 エレベーター点検 26 EPA監査		
1月	毎月	お誕生日会	10・14	手作りおやつ	毎月	31	BCP研修		22・27 夜勤従事者健康診断		
					毎月	15	リーダーワークショップ 管理職研修 感染対策研修 キャリア&ライティング研修	25 BCP訓練	15 湖南市SW来所		
2月	毎月	お誕生日会 HOPPA石部交流	10・12	手作りおやつ	毎月	22	リーダーワークショップ 管理職研修 認知症高齢者の人権 運営推進会議 褥瘡予防研修		1 消防設備点検		
					毎月	15	キャリア&ライティング研修		13 産業医施設巡回		
3月	毎月	お誕生日会 湖南市運営指導	10・12	手作りおやつ	毎月	25	リーダーワークショップ 管理職研修 看取り研修 リスクマネジメント・ICT研修	19 消防・避難訓練	13 湖南市SW来所		
					毎月	28			20 エレベーター点検		

令和6年度 行事等実施報告書（みやのもりデザイナーサービスセンター）

	行事						その他		
	日	内容	日	内容	日	内容	日	内容	
4月	1・2・10・11・19・20	室内レク	3・5・9・13・15・18	5月制作 映画鑑賞	4・17	テークタイム	6・8	紙芝居	第4週 温泉week 第3週 曜日対抗ゲーム
	12・16	手作りおやつ	29・30	映画鑑賞					
5月	1・4・7・10・16・27	室内レク	14・22・24	テークタイム 紙芝居	1・4・7・10・16・27	6月制作 映画鑑賞	9・13	手作りおやつ	第1週 温泉week 第3週 曜日対抗ゲーム
	6・25	DVD鑑賞	29	紙芝居	30・31	映画鑑賞			
6月	1・3・6・8・11・13・15・17・20・22・24・27・29	室内レク							

R6.7月以降休止

## デイサービスセンターこんぜの郷

### こんぜデイサービスセンター

(令和6年度 総括)

#### 1. 総括

##### (1) デイサービスセンターこんぜの郷

- 令和6年度は7月1日に利用者層の拡大、利用のしやすさの向上を目的に認知症対応型デイサービスセンターから地域密着型デイサービスセンターに事業転換を行った。
- こんぜの郷は、栗東市の要介護者の「よりどころ」となり、要介護者が住み慣れた地域で安定した生活が継続できるよう、また利用者の意志や人権を尊重し、利用者一人ひとりに合わせた環境で自己実現・自己表現ができるデイサービスとなるよう努めている。機能訓練指導員が毎回個別機能訓練を実施し、認知機能および身体的機能の維持・向上に努めた。また、利用者の様子を写真に撮って家族に配布し、普段の様子や状態の報告を実施することで、利用者家族との信頼関係の構築を図ることができた。さらに、利用日以外でも急遽利用の希望があった際には柔軟に受け入れを行い、在宅での介護負担の軽減に努めた。しかし、「こんぜデイサービスセンター」と併設されていることから、利用を検討される利用者や利用者家族、介護支援専門員の多くが、サービス内容よりも利用料金の安さを重視する傾向があり、事業転換を行ったものの当事業所への新規利用は今年度0名であった。
- 上記の理由により年度末の登録利用者数は1名となっている。
- 平均要介護度は2.0であった。
- 運営推進会議を3回開催。地域密着型への事業転換後、委員は栗東市職員から地域包括支援センターの職員へと変更になった。
- 今年度も栗東市と協働し、認知症カフェを実施(12回開催)。認知症講座や認知症予防の体操などを幅広く実施し、内容については好評であった。参加人数も増加傾向にあり、毎回15名～20名程度が参加し定着している。近隣の知り合い同士で連絡を取り合いながら一緒に参加されることも多く、地域のつながりも構築できていると考えられる。

##### <時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	1,235	17,594	4,282	2,208	▲22,848
5年度	3,129	18,024	3,996	2,393	▲21,285
4年度	3,887	18,452	4,232	2,589	▲21,386

##### (2) こんぜデイサービスセンター

- 運営面については、当事業所が栗東市の在宅介護の拠点となるよう、地域に根ざした活動に努めた。利用者の趣味や興味・関心などの情報を収集し、午前中にそれらに取り組めるように

努めた。事業所の特色であるリハビリ設備(足こぎバイク・平行棒・ショルダーマシーン・リハビリスロープ・バンドグリップ等)を活かし、個別機能訓練に重きを置いて取り組んだ。既存の利用者や家族からは喜びの声も多く、満足度は向上したと考えられる。また、入浴についても、3つの浴槽を活かし、利用者一人ひとりに合わせた入浴ができるよう取り組んだ。

- 今年度の一日平均利用者数は15.5名、年間の延べ利用者数は4,858名となり、前年度と比較して531名の増加となった。要因としては、みやのもりデイサービスセンターの廃止に伴う利用者の増加が大きいと考えられる。また、徐々に外部の居宅介護支援事業所からの新規依頼も増えつつあるが、入院や石部ケアセンター・あぼしショートステイの利用により大幅な利用率の向上には至らなかった。利用者家族のニーズとしては、在宅での介護を継続するよりも、条件が整えば入所やショートステイを選び、可能な限り在宅介護を行わない傾向があると見受けられる。
- 平均要介護度は2.3であった。
- 年度末の登録利用者数は54名で、前年度より7名増加した。
- 地域の学童保育所の子供たちとの交流会や、地域のボランティアの受け入れを実施し、地域における八起会の知名度を高めた。今後も信頼され、必要とされる事業所として、利用者・利用者家族・地域の方々・各関係事業所等の要望に対し、柔軟かつ迅速に対応できるよう努めていきたい。

##### <時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	45,720	20,552	10,405	3,959	10,801
5年度	40,661	18,027	9,350	4,425	8,835
4年度	38,056	21,268	8,983	4,996	2,809

##### 2. 令和6年度 年間延べ利用者数(DS こんぜの郷・こんぜ DS 上段:介護 下段:予防)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
DS こんぜの郷	7	5	6	4	9	9	6	8	10	7	9	7	64
こんぜ DS	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
こんぜ DS	371	424	402	446	442	398	426	415	405	358	346	390	4823
DS	0	0	0	5	3	4	5	4	4	1	0	9	35

3.職種別職員数（令和7年3月31日現在）

形態	職種	所長	事務員	相談員	ワーカー	看護師	指導員 機能訓練	調理員	運転手
	DS こんぜの郷	1(1)		1(1)	1(1)		(1)	1	1
	こんぜDS	1(1)		1(1)	3(3)	1(1)	(1)		
	計	2(2)		2(2)	4(4)	1(1)	(2)	1	1

( ):うち兼務

4.デイサービス登録者数（令和7年3月31日現在）

形態	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
DS こんぜの郷	0	0	0	1	0	0	0	1 男性 1 女性 0
	50代	60代	70代	80代	90代	100代		
	0	0	0	1	0	0		
こんぜDS	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	0	2	10	13	8	11	1	
50代	60代	70代	80代	90代	100代			
0	1	6	22	16	0			

5.年間行事等実施内容

別紙のとおり



## 八起会栗東居宅介護支援事業所

(令和 6 年度 総括)

### 1. 総括

令和 6 年度は 11 月 1 日に八起会居宅介護支援相談所(湖南省丸山)に移転・統合を実施し、居宅介護支援事業所の拠点を一ヶ所に集約した。これにより業務の効率化と利用者の利便性向上を図り、より一層満足いただけるサービス提供に努めた。

事業所の移転・統合に伴い、10 月末までの延べ利用者数は 780 名(令和 5 年度は年間で 1,388 名)であり、前年度対比では 1 か月当たり 4 名の減少となった。経営面では、サービス活動収益 11,288 千円、人件費 8,550 千円、物件費等 2,330 千円、減価償却費 0 千円でサービス活動増減差額は 409 千円となった。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6 年度	11,288	8,550	2,330	0	409
5 年度	19,938	16,337	3,173	690	▲261
4 年度	22,981	16,614	2,925	808	2,634

<活動報告>

- ・八起会居宅介護支援相談所(湖南省丸山)に移転・統合を行い、利用者・利用者家族・各関係機関にご迷惑をおかけすることなく、居宅介護支援の継続に努めた。
- ・24 時間連絡体制により、独居世帯や高齢者世帯、介護力が不十分な世帯、さらに虐待や経済的困窮世帯などの困難ケースにも対応し、各関係機関との連携を密にすることで、地域の方々および行政から信頼される事業所としての役割を果たした。
- ・地域に根差した居宅介護支援事業所として、栗東市役所において圏域の薬剤師とケアマネジャーとの情報交流会に参加し、薬剤管理や職種間の連携について意見交換を行った。
- ・職員の資質向上においては、他法人の居宅介護支援事業所との合同で、アセスメントからケアプランへの導き方について事例に基づいて学ぶ研修会を実施した。また、栗東市長寿福祉課および栗東市内の地域包括支援センターが実施した虐待防止研修会や介護給付適正化研修、地域課題の解決のための多職種連携についての研修会にも参加した。さらに、介護支援専門員としてのスキルアップを目的とした勉強会を週 1 回開催し、利用者に関する情報共有を行った。

### 2.年間延べ利用者数(上段:要介護 下段:要支援)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
87	90	86	87	88	83	85	-	-	-	-	-	606
25	24	25	25	25	25	25	-	-	-	-	-	174

要介護利用者: 606 名月平均 86.6 名 (令和 4 年度:1,105 名 月平均 92.1 名)

要支援利用者: 174 名月平均 24.9 名 (令和 4 年度: 283 名 月平均 23.6 名)

(令和 6 年 4 月～10 月)

### 3. 職種別職員数 令和 7 年 3 月 31 日現在)

	介護支援専門員
常勤	-
非常勤	-
合計	-

令和 6 年 11 月 1 日、八起会居宅介護支援相談所に移転統合による。

**グループホームみなくち  
デイサービスセンターあさひがおか**  
(令和6年度 総括)

1. 総括

(1) グループホームみなくち

- ・令和5年5月に新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行されたが、介護・医療現場では重症化のリスクがある方も依然として存在するため、マスクの着用や面会の一部制限などの対応を継続してきた。令和6年度はインフルエンザの流行もあったが、利用者に感染者が出ることはなく、面会を中止せずに、所定の場所に設置した陰圧ブース内での家族面会を継続することができた。感染症予防の影響で疎遠になりがちであった利用者 と利用者家族・地域との距離も、少しずつ改善の兆しが見え始めている。
- ・年間の平均利用率は94.4%で、前年度の実績(96.7%)を下回る結果となった。1月後半より退居(死亡・転居・長期入院)が相次ぎ、次期入居者の確保が難しく、空床の解消には至らなかった。その間、必要な方に対して短期入所サービスをご案内し、空床を埋める努力を行った。現在、短期入所サービスを登録している利用者は5名で、いずれもデイサービスセンターあさひがおかを利用中の方です。
- ・令和6年度の退居者は、過去最多の11名であった。退居理由は、他施設への入所3名、長期入院2名、救急搬送後の病院死亡4名、施設内での看取り2名であった。施設で看取りができたケースは少ない結果となっている。
- ・1月より若年性認知症の利用者が1名入居されたことにより、平均年齢が90歳から88歳に下がった。新規利用者は身体的な自立度も比較的高い傾向にあるため、今後は利用者 に役割を持って活動していただく機会を設けるとともに、行事やレクリエーションの充実を図り、利用者満足度およびサービスの質の向上に取り組んでいく。
- ・水口まちづくり協議会とのつながりを作り、「花いっぱい運動」を水口事業所の駐車場で開催し、地域の行事を合同で行うことができた。今後も地域行事への協力を通じて、地域の方々との顔の見える関係づくりを進めていく。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	95,917	66,284	21,647	8,684	-698
5年度	99,206	69,891	20,049	8,663	603
4年度	97,105	75,788	21,462	8,479	-8,625

(2) デイサービスセンターあさひがおか

認知症であっても可能な限り住み慣れた地域や自宅でいつまでも生活できるよう、利用者の社

会的孤立感の解消および心身機能の維持、さらに利用者家族の身体的・精神的負担の軽減を図れるよう努めた。認知症対応型通所介護の特徴である「少人数制」を最大限に活かし、一般型のデイサービスとは異なる個別の対応を重視し、本人のペースに合わせ柔軟な対応を行うことができた。

- ・相談員を中心に居宅介護支援専門員との信頼関係を構築し、新規利用者を紹介していただけるよう事業所へ訪問するなどの努力を重ねた。また、事業所の広報資料を作成し、サービス中の様子をわかりやすく紹介することができた。
- ・毎日の連絡帳にその日の写真を貼り付けて持ち帰っていただくことで、利用者家族にも利用中の自宅とは違った一面を知っていただくきっかけとなり、介護支援専門員からの紹介にもつながっている。
- ・年間の平均利用率は56.06%で、年間目標を達成することができた。また、前年度に比べて約1.25%の上昇となり、少しずつではあるが努力の成果が表れている。
- ・デイサービスからグループホームの短期利用サービスをご案内したことにより、現在5名の利用者が短期利用サービスに登録されている。また、今年度はデイサービスからグループホームへ入所された方が6名おり、他の介護施設に入所することなく、事業所内で継続的な支援を提供できたことは、入所申込者が少ないグループホームにとっても効率的な運営につながった。
- ・個々の利用者の能力に応じたレクリエーション等の提供や、認知症状に合わせた対応により、重度の認知症がある利用者も受け入れることができた。

<時系列推移表>

単位:千円

	サービス活動収益	人件費	物件費等	減価償却費	サービス活動増減差額
6年度	24,457	16,684	5,655	1,552	566
5年度	23,552	13,396	4,842	1,861	3,453
4年度	15,688	9,793	4,073	1,884	-61

2. 年間延べ利用者数、月別利用率

グループホームみなくち

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ入所人数(名)	540	542	510	555	557	537	532	531	527	520	432	464
入院・外泊人数(名)	12	30	7	10	0	4	1	2	24	17	12	0
利用率(%)	97.78	91.58	97.41	97.67	100	98.70	95.52	97.96	91.22	91.58	83.73	89.61

デイサービスセンターあさひがおか

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数 (名)	13	15	16	15	17	19	18	17	19	17	17	15
延べ利用者 数(名)	137	158	138	167	171	146	154	129	151	132	135	130
利用率(%)	52.38	57.25	57.5	60.51	64.77	57.94	55.8	51.19	54.71	52.78	56.25	51.59

\*登録人数は各月末時点

3. 職種別職員数 (令和7年3月31日現在)

	管理者	事務員	計画作成 担当者	生活相談員	機能訓練 指導員	介護職員	介護助手	介護補助
グループホーム みなくち	1(1)	1(1)	1(1)	0	0	14(1)	0	2
DS あさひがおか			0	1	1(1)	3	1	1
計	1(1)	1(1)	1(1)	1	1(1)	17(1)	1	3

\*管理者、事務員はグループホームみなくち、デイサービスセンターあさひがおか兼務 ( )はうち兼務

\*計画作成担当者は介護職員との兼務

4. 年間行事等実施内容

別紙のとおり



